2018年度春季短期研修（2019年2月～3月）
海外短期研修報告書

Report on short term study abroad programs

2018年度春季短期研修報告書の発刊にあたって

国際教育センター長　棚橋　訓

お茶の水女子大学の2018年度春季短期研修派遣プログラムに参加して世界各地の9大学において海外短期研修を修了した39名の学生による帰国報告をここにお届けいたします。

2018年度春季に海外短期研修に参加した39名の留学先毎の内訳は、トムスク教育大学（ロシア）5名、同徳女子大学校（韓国）6名、カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）2名、セントメアリーズ大学（アメリカ）5名、オタゴ大学（ニュージーランド）1名、ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア）5名、モナシュ大学（オーストラリア）2名、ハル大学（イギリス）11名、バリャドリッド大学（スペイン）2名と多岐に亘ります。

本学が海外短期研修を開始した2004年度当初は、その内容が英語語学研修プログラムのみに限定されていましたが、現在では、一口に英語語学研修と言っても、実践的な英語力を磨くプログラム、アカデミック英語を磨くプログラム、科学者・技術者のような専門家に求められる英語のコミュニケーション・スキルを磨くことができるプログラムなど、その内容は多様なものとなっています。さらに、英語以外の言語の語学研修、各派遣大学に設置されている正規専門科目の聴講、多文化共生、グローバル・イシューの探求、環境問題と持続可能な社会の探求などの現代世界の諸課題をめぐる特別講義の聴講、ワークショップ、フィールドワーク、ディスカッション、ディベートなどの能動的学習をコアとするプログラムなど、海外短期研修プログラムの展開は学生のニーズに呼応しながら、多様化とともに進化し続けています。その結果、学生規模が比較的小さな本学にあって、2018年度に90日以内の海外短期派遣を経験した学部生は延べ168名、大学院生は延べ109名を数えるに至っています。また、2018年3月発表の「THE（Times Higher Education）世界大学ランキング日本版2018」で、本学は日本人学生の海外留学比率が高い大学として国立大学では東京外国語大学に次いで2位に、国公私立すべてを含む大学全体では18位の高評価を得ました。

前センター長・森山新先生が築かれた礎のもと、本学では、国際教育センターが各研修の内容を精査したうえで学生を派遣するという方針が貫かれ、初発の説明会から、前年度研修参加者との相談会、渡航前オリエンテーション、異文化適応・危機管理に関する事前研修、帰国後の事後指導まで、一連の流れを通じて肌理細かな一貫したサポートを実施し、研修の質を保証できるプログラムを多数提供してきています。

本文の各報告にお目通しいただくと、海外短期研修を通じて学生個々がいかに成長を遂げたのかという軌跡を如実にご理解いただけるかと思います。海外短期研修の舞台裏を支える国際教育センターの業務に携わるものにとっては、研修参加者が充実した留学体験を得て、その体験が参加者個々の成長に少しでも資することができたのであれば、それは正に望外の喜びです。

国際交流担当の理事・副学長である佐々木泰子先生、前センター長の森山新先生はじめ、海外短期研修の企画運営にご尽力くださった松田デレク先生、長塚尚子先生、鈴木芽以先生、国際本部員の先生方、国際課のみなさま、関係各位には、末筆ながら、この場を借りて改めて深謝申し上げる次第です。

2019年9月吉日

目次

1. セントメアリーズ大学（アメリカ） 1

2. トムスク国立教育大学（ロシア） 13

3. ハル大学（イギリス） 23

4. ニューサウスウェールズ大学（オーストラリア） 47

5. モナシュ大学（オーストラリア） 59

6. バリャドリッド大学（スペイン） 65

7. オタゴ大学（ニュージーランド） 71

8. 同徳女子大学（韓国） 75

セントメアリーズ大学（アメリカ）

研修期間：2019 2/28～2019 3/9

滞在：学生寮

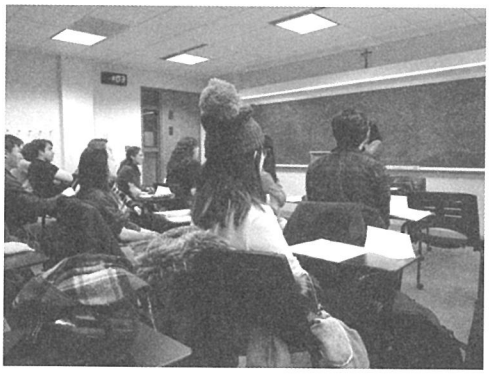
研修内容：アメリカの大学での理系勉強の体験および聴講、ラボ見学

セントメアリーズ大学短期研修

理学部　情報科学科
学籍番号 1720505　伊藤美賀

1. 授業内容

大学の授業は実際にセントメアリーズの学生が受けている授業に参加させていただくという形でした。テスト期間中だったため、授業時間の変更や休講がありました。授業内容は事前に簡単なシラバスを確認してから行きましたが、詳しいことは知らされていなかったので授業の準備を事前にすることは出来ませんでした。以前大学で学んだことのある内容であったため、なんとかついて行くことができましたが、初めて学習する内容だったら全く理解ができなかったと思います。私はコンピュータのクラスと数学のクラスの 2 種類を受講しました。コンピュータのクラスでは教室にコンピュータが用意されていましたが、皆自分のコンピュータを使っていました。先生が前でプログラムの説明をしてくださるので、それを見ながらメモを取る生徒もいれば自分のパソコンで実行したりする生徒もいたりと、皆がそれぞれの方法で学習していました。数学のクラスでは 4～5 人のグループを作って問題に取り組むスタイルでした。私も実際に現地の学生とホワイトボードの前で証明問題を解きました。クラスの規模はどちらも 15～20 人ほどの少人数制でした。事前に自己紹介をする機会があるかもしれないというお話を聞いていたので、自己紹介用のスライドを紙と USB で持って行きました。また、ノートルダム大学の日本語の授業に参加させていただく機会があったのですが、セントメアリーズ大学とはまた違った雰囲気で、その違いを実感できたのも良かったです。

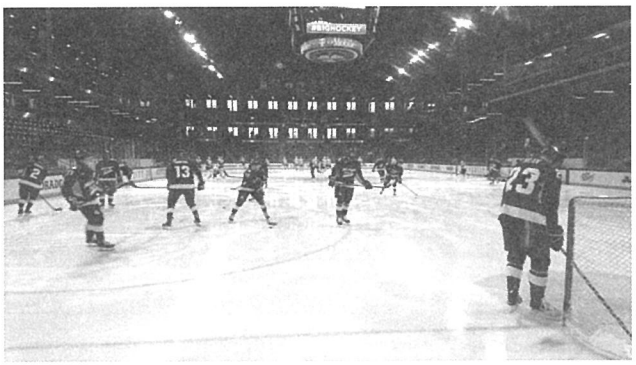


（ノートルダム大学での授業風景）

2. 課外活動

私たちはセントメアリーズ大学に行く前に一日シカゴに滞在したので、少しの時間だけでしたがシカゴ観光をすることができました。また、セントメアリーズ大学に着いてからは、授業のない空き時間にアウトレットモール、チョコレート工場、車の博物館などたくさんのところに連れて行ってもらいました。セントメアリーズ大学の隣にはノートルダム大学が

あるので、ノートルダム大学の教会を見学したり、ホッケーの試合を観戦できたのはとても貴重な体験でした。セントメアリーズ大学の学生はノートルダム大学の図書館やジムなどの施設を利用することができ、ノートルダム大学で授業をとっている生徒も多いようです。



（アイスホッケーの試合の様子）

3. 生活全般

セントメアリーズ大学の寮に滞在しました。一人部屋で、部屋の広さは３畳ほど、ベッド、勉強机、タンス、クローゼット、洗面台のみのシンプルな部屋で、トイレとシャワーは共有でした。大変気温の低い地域でしたが、部屋の中は暖房が効いていたので寒いと感じることはありませんでした。また、私は日本から Wi-Fi を借りて行きましたが、寮の自室では大学の Wi-Fi を使う事ができなかったので、一緒に研修に参加した友人たちは Wi-Fi を使うために寮のロビーまで降りなければなりませんでした。バイキング形式の食堂があり、本学の学生なら全て食べ放題だったので毎食、食堂で食事をとっていました。種類は豊富で毎日メニューが変わるので飽きることはありませんでしたし、規模の小さい大学なので食堂にいけば誰かしら知り合いに会うことができたので、日本人だけで食事をとることはほぼありませんでした。大学内には学生なら誰でも使えるジムがあり、朝からトレーニングしている生徒がたくさんいました。連絡手段は Facebook の messenger もしくは Instagram の DM を使っていました。iPhone の人は iMessage を使っていました。

（大学の食堂）

セントメアリーズ大学研修を終えて

生活科学部　食物栄養学科
1830115　栗谷　萌

【授業】

理系向けに組まれたプログラムで、数学、物理、化学、生物、情報の気になる授業を聴講する形でした。私は化学の授業から、有機化学の授業を選択しました。1コマ50分という短い時間だったので、すごくあっという間でした。授業の内容は、日本では高校生が学ぶ内容だったので、英語でもついていくのが苦ではなかったです。最初クラスの人たちは私のことを見向きもしなかったけど、授業内でパワーポイントを使って自己紹介をする時間を教授が作ってくださり、そうするとみんな興味を持って聞いてくれました。その後は話しかけてくれたので、クラスの人との交流もありました。また、実験の授業も見学しました。学生はそれぞれが手際よく作業をしていました。実験室はとても広く感じました。4年生の卒論発表会にも参加しました。自分の研究したことを堂々と話している姿に感銘を受けました。その会には教授や同期、後輩の他に保護者も来ていました。

【課外活動】

1日に1コマか2コマしか授業を取らなかったのと、最初の3日間しか授業がなかったので、ほとんどの時間を課外活動に充てていました。例えば、

・アウトレットでショッピング　・教会のお祈りを見学　・少数民族の博物館を訪問
・チョコレート工場を見学　・近隣の他大の授業を見学　・ミュージカルサークルの公演を見る　・大学内のジムに行く　・アイスホッケーの試合に連れて行ってもらう
・歓送迎会を開いてもらう　などです。日を追うごとに友達も増えていき、様々な体験をさせてもらえました。日本で生活していては体験できないようなこともたくさんありました。また私は滞在中に誕生日を迎えたので、誕生日パーティーを開いてもらいました。祝ってもらえると思っていなかったのでうれしかったです。

【生活】

現地では、立候補してくれた学生のバディーと連絡を取り合って生活をしていました。わからないことや困ったことがあったときにすぐに助けてくれました。滞在先は大学の敷地内にある寮でした。部屋は一人部屋で、ベッドとクローゼット、タンス、洗面台、勉強机がありました。寮の各階にシャワールームとトイレがいくつか並んでいる場所があり、1階にはキッチン（使っていません）や、友達と集まれるロビー（テレビや自動販売機があります）がありました。食事は、学食で使えるミールカードをもらっていたので基本的に昼食も夕食も学食で食べました。時間帯によって少しメニューは変わりますがブッフェ形

式でした。品数はとても充実していました。朝ご飯を食べる文化があまりなかったので、前日の夜に学食にあるオレンジやバナナを部屋に持って帰って翌日の朝ご飯にしていました。

【英語力】

英語に関しては本当に不安で、相手の言っていることがわからなかったらどうしよう、言いたいことが言えなかったらどうしようと、ずっと考えていました。実際最初はやはりそうなってしまった部分もありますが、どんなに簡単な英語でもいいし、文法は多少間違えてもとにかく話そうとすることはとても重要でした。伝えようと頑張ったら、相手がこういうことが言いたいんでしょ？というように言い換えてくれたのでアピールは大事だなと思いました。聞き取るのは数日で自然と耳が慣れていきました。実感するのに3〜4日くらいかかりましたが、帰るころには確実に聞き取れる量が増えていました。つらい時期があるのは英語が苦手であるほど当然で、それでも乗り越えたのを実感したときはすごく達成感がありました。

【まとめ】

私は高校生の頃から留学に憧れていました。なぜなら、留学したら何か自分を変えられると思っていたし、英語が達者になると思っていたし、なによりもかっこいいと思っていたからです。ただ、自分は英語が苦手で単語は覚えていない、センター試験のリスニングは6割という悲惨さだったので、なかなか実際に行くことを心に決められないでいました。今回初めて留学に行き、異文化に触れ、新たな友達と出会い、様々な発見をすることができました。テレビで見ているだけ、人の体験談を聞くだけでは何もわからなくて、自分の肌で感じることのすごさを実感しました。日が経つごとに、日本で当たり前だったことがアメリカでは全然当たり前じゃないということに気づいたり、固定概念がどんどん崩れました。異文化交流や多文化共生と言われる今日の世の中で、やはり初めは異国の文化に戸惑いを隠せない経験もしたので、異文化を受け入れることがどういうことなのか、口で言うのは簡単でも実際はどれだけ難しいことなのかを初めて分かった気がしました。また、現地の学生はみんな本当に優しくて、すごく歓迎してもらえました。想像していたよりも何倍も充実した10日間でした。行って良かったと心の底から思っています。

↑誕生日会にて↑

↑大学の建物はおしゃれでした↑

セントメアリーズ大学研修を終えて

理学部　生物学科４年
1620421　古市萌

授業内容

事前にいただいた聴講可能な授業リストの中から、自分の専攻に近い授業を選択し、参加させていただきました。私は生物学の専攻なので、１年生や２年生が対象の基礎的な分子生物学の授業や大腸菌を使った形質転換を行う実習、３年生が対象の論文を読んでディスカッションを行う授業を聴講しました。基本的な授業スタイルはお茶大と同じでしたが、ほとんどの先生が説明にパワーポイントを用いており、多くの学生は授業中でも分からないことは積極的に質問していました。たとえ間違えたことを言っても、先生を含めて学生も受けとめてくれる雰囲気があり、失敗を恐れている人がいないように見えました。基礎を学ぶ授業では、日本では高校生の時に勉強するような内容も含まれていました。実習では、実験の内容やサンプルの調整についてペアで話し合って実験を行っていました。先生は考えさせることを一番大切にして授業を行っていると感じました。しかし、タイマーを使わずに感覚で時間を計っていたり、私がサンプルを入れ間違えてしまってもIt’s OK!!といった反応だったりと、日本人の方が細かいことを気にするのだなと感じました。

授業の聴講以外にも、卒業研究の発表を聞かせていただく機会がありました。セントメアリーズ大学はとても自然に恵まれた環境であることもあり、動物の行動について研究している学生さんが多かったです。また、病気に関連した研究も行われており、とても興味深かったです。

課外活動など

セントメアリーズ大学はシカゴから電車で２時間ほどの場所にあるので、シカゴの観光をする時間も少しだけありました。近代的なビルと趣のある古い建物が並ぶ街並みは素晴らしく、シカゴ美術館も美しかったです。有名なdeep dish pizzaやhot dogも食べることができました。

サウスベンドの街には、車の博物館や有名なチョコレート工場があり、セントメアリーズ大学の先生が連れて行ってくださいました。また、Amishと呼ばれる昔ながらの生活スタイルを続け、車ではなく馬車に乗り、自給自足で生活を営む人々が住んでいる場所にも行きました。Amishという移民の方がいることを今まで知らなかったので、驚きの生活スタイルでした。電気や車を使って生活している人と使わないで生活している人（Amishの方）が同じ町で共に暮らせる環境があり、道路には車も馬車も通っているという光景は少し不思議でしたが、素晴らしいと感じました。

セントメアリーズ大学は女子大のcollegeですが、隣には共学のノートルダム大学とい

うuniversityがあります。セントメアリーズ大学の学生の中にはノートルダム大学の授業を履修したり、クラブ活動に参加したりしている人もいるようで、私たちも見学に行きました。キャンパスの中には講義室のある建物や寮はもちろん、競技場や美術館、教会など1つの街ができるほど広大な敷地でした。セントメアリーズ大学で友達になった学生さんと一緒にアイスホッケーの試合を観戦しに行ったり、チェコの交響楽団の演奏会が開かれると知り、コンサートを聴きに行ったりもしました。アイスホッケーの試合は日本ではあまり有名ではありませんが、ノートルダム大学にはチームIrishがあり、大学対抗の試合が行われていました。チームカラーの緑色の洋服を身につけて一体となって自分達の大学のチームを応援する試合は今までにないほどワクワクする経験でした。

生活全般

学内の学生寮の一つにお部屋をいただき、初めて寮で生活をしました。私たちは1人部屋でしたが、多くの学生は4〜5人で同じ部屋で生活をしていました。外気温は常に氷点下で雪が降った日もありましたが、お部屋の中は暖房がしっかりと効いていて暖かかったです。お部屋にはベッドと勉強机、クローゼットや洗面台があり、シャワールームとトイレは共用でした。何から何まで至れり尽くせりの環境で、大学の先生方やバディの皆さんに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

食事は、学内の食堂で食べました。セントメアリーズ大学の学生さんの多くは朝ごはんを食べないようで、ブランチと夕食を学食で食べていると聞きました。朝ごはんをしっかり食べる私はとても驚きました！学食はビュッフェ形式で、ピッツァやパスタ、ハンバーガーといったアメリカンな食べ物から、ベジタリアンの人でも食べられる食事、デザートまで様々な種類がありました。私はよくオレンジをお部屋に持ち帰って朝ごはんにしていました。また、カトリック教徒の人が肉類を食べない日には学食にもお肉が一切なく、ハンバーガーの中身が椎茸になっていて文化の違いを感じました。

バディのお部屋に入れてもらう機会があり、国籍や肌・髪の色、宗教など多様なバックグラウンドを持つ人達が共に生活をしている様子を見て、それぞれの生活の仕方や趣味が違ってとても面白いなと感じました。また、大学の中には教会があり、礼拝にも参加させていただきました。たくさんの学生の方、先生方が歓迎してくださり、とても充実した10日間の研修になりました。

バディと一緒に…

セントメアリーズ大学研修を終えて

理学部　生物学科
学籍番号 1620404　大竹佑衣

研修内容

全部で 10 日間、移動の関係もあり大学に滞在できたのはほぼ 1 週間だったので短い期間でしたが、たくさんのイベントがありとても充実した、内容の濃い研修でした。セントメアリーズの授業を受けるのはもちろんのこと、卒業研究の発表会を聞いたり、車の博物館や Amish という人々の博物館に行ったり、ミュージカルを見たりしました。カトリックの大学なので大学内に教会があり、ミサも体験しました。また歓迎パーティーと送別パーティーを開いて頂いて、セントメアリーズの学生と交流を深めることができました。さらに、セントメアリーズの隣にはノートルダム大学があり、スタジアムや美術館、ホールなども備えている大きな大学なので、そこでオーケストラのコンサートを聴いたり、アイスホッケーの試合を見たりもしました。ノートルダム大学で行われている日本語の授業にお邪魔して日本語でアメリカの大学生と話す機会もありました。本当に、私たちを暇にさせないようにと気を遣ってくださったのかな？と思えるほど盛りだくさんのスケジュールでした。

セントメアリーズの先生方や学生さんは本当に親切でした。一番お世話になった Adriana 先生はお母さんのような存在で、困りごとはすぐに相談に乗ってくれ、私たちが行きたい、やりたいと希望することは何でも快く引き受けてくださって、本当に良くして頂き感謝してもしきれません。学生のみなさんも、いろいろな場面で私たちを助けてくださり、授業の合間には一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

授業、研究

大学での研修の最初に、卒業研究の発表を聞かせてもらう機会があり、とても興味深かったです。発表のスタイルなどは日本と大きくは変わりませんでしたが、お茶大にはないテーマで研究をしている発表をたくさん聞くことができました。キャンパスが広くて自然豊かなので学校自体が研究のフィールドになることもあり、この大学ならではかなと思いました。理学部棟にあたる science hall は、数年前に立て直されたそうで、とても綺麗で驚きました。学生の研究部屋や植物の実験に使う温室も見学させてもらいました。

私がとった授業は、植物と根粒菌や窒素固定細菌など菌類の共生がテーマのものでした。パワーポイントを使ったレクチャーで、人数や講義室の規模もお茶大くらいなので、一見お茶大の授業と変わらないようでしたが、先生が問いかけたり、質問がないかを聞いたりすると、すっと手が上がり発言が出るのは日本の授業と異なる点だなと感じました。授業のみならず、博物館などの見学でも必ず質問はないか聞かれ、一緒にいた先生がいくつか質問していたように、アメリカでは質問することがごく普通のことのようでした。日本ではそのような場面で進んで質問をする人はあまり多くないと思うので、学ぶべき部分だなと思います。

成果、反省点

現地のことを学ぼう、多くのことを吸収しようということしか考えておらず、日本からのお土産や、日本の写真など、日本のことを紹介できて、もっと興味を持ってもらえるように準備しておけば良かったなと思いました。学生さんと話していて、日本の料理であるお餅やお寿司を美味しい、好きだと言ってくれる人がいたけれど、アメリカ流にアレンジした、日本とは少し違うものを食べて美味しいと言っていたので、本物の日本の文化を伝えられたらいいなと感じました。

私は今まで海外に行った経験が無く、英語でネイティブの人としゃべるのがほぼ初めてだったので、どのくらい英語でコミュニケーションが取れるのか研修前は不安でした。セントメアリーズの先生方や学生のみなさんと話してみて、拙い英語ではありましたが、自分の英語が伝わった、なんとかコミュニケーションがとれた、という経験は自信になりました。また英語で自己紹介や研修内容のまとめをプレゼンする機会が何度かあり、今後の糧になる経験ができたなと思います。一方、感謝の気持ちや興奮を強く表現したり、相手の言うことに対して「本当だ！」と同意したりしたいのにどう表現して良いかわからず伝えきれないことが多々あり、もどかしさを感じました。また語彙力が足りないために本当に言いたいことと違うことを言うしかないということもあり、自分の力不足を痛感しました。帰国後、テレビや町中で聞こえる英語の聞こえ方が変わり、よりクリアに聞こえるように思います。今回の留学で得た自信と、英語に対する危機感を忘れずに、今後も努力していきたいと思っています。

この留学を通して、たくさんの人と出会い、様々な価値観に触れることができて刺激を受けるとともに、慣れない環境におかれることで自分の短所長所も顕著にわかり、自分自身を見直すことができました。また楽しい思い出もたくさんでき、充実した体験ができたのではないかと思います。

セント・メアリーズ大学研修を終えて

理学部化学科
1720314 柘植　亮子

(1) 授業内容

今回の研修に参加しようと思った最大の理由は、アメリカの大学の化学の授業を現地の生徒と一緒に受けることができるというプログラムだったからです。他の国の学生は大学でどのように化学を学んでいるのかとても興味がありました。私は、2年生の有機化学の授業を選択しました。1週間に3コマ座学の授業があり、1コマは実験の授業でした。授業の選択肢として他には物理化学、無機化学などがありました。

授業は 9 割理解できる内容でした。教授が使う英語はそこまで難易度は高くなく、反応などは図示して説明があったため、授業についていけないということはありませんでした。また日本では高校で習う範囲も含まれており、国によってカリキュラムが違うことを体感できました。授業後にはリモコンを使った小テストを行なっていたのが特徴的でした。

実験にも参加しました。実験という科目があるわけではなく、座学とセットでした。実験では、学生は 1 学期を通して与えられた 4 つの未知試料を同定するということを行なっていました。実験マニュアルが配られているわけではなく、学生はそれぞれ 2 人組でいかに試料を同定していくか計画を立てながら進めていました。実験を始める前には教授から実験に関する知識の導入（実験に関わる反応や IR 測定法など）が行われていました。学生は教授の話も元にしながら 2 人で話し合い、協力して実験を進めていました。1 学期を通してやるため、比較的長いスパンで計画しなければならず、難しそうだと感じました。私は日本で高校、大学と実験マニュアル通りに進めることに慣れているので、とても新鮮でした。

(2) 課外活動

約一週間の滞在でしたが多くの課外活動を体験することができてとても充実していました。シカゴ観光ではシカゴ美術館を訪れました。大学に着いてからはアウトレットモール、Amish 博物館、チョコレート工場見学、サウスベンド博物館など、1 週間でもたくさんの観光や見学をすることが可能でした。また、ピーターパンのミュージカルのような大学内での学生の活動を見る機会もありました。ノートルダム大学が隣接しているため、ノートルダム

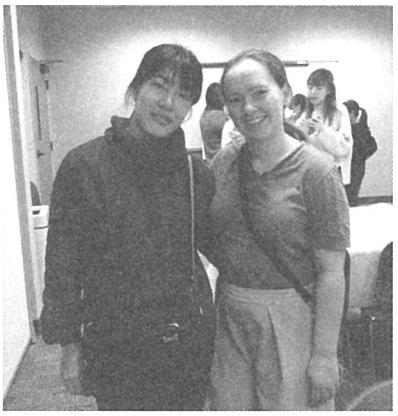
大学でラボ見学をしたり、大学内を散策したり、またノートルダム大学の日本語の授業に参加することもできました。日本語を外国語として学ぶ難しさを目の当たりにすることができて興味深かったです。ノートルダム大学にはアイスホッケー場やフットボール場、コンサートホールなどがあり、地域の人が集まる場にもなっていました。アイスホッケーの試合にも連れて行ってもらい、熱いゲーム観戦をとても楽しみました。

留学生一人一人にバディがいて、私のバディは化学専攻だったため、将来のことや研究のことについて話す機会があり刺激になりました。また彼女は 4 年生だったため、偶然にも卒論研究発表を聞く機会がありました。卒論発表の場は割とカジュアルで両親や友達なども見に来て軽食を取りながら聴くスタイルでした。発表の魅せ方がさすがだと感じました。堂々とした態度や練られた原稿そしてパワーポイントが素晴らしかったです。小学校の頃からこのように発表する機会は多く、力を入れて指導がされていると言っていました。

(3) 生活全般

日本での大学生活と最も大きな違いとして印象的だったことは学生のほとんどが大学の敷地内で寮生活をしていることです。1〜4 人部屋があり、4 人部屋がとても人気だということでした。私たちも寮に入って、1 人部屋で 1 週間生活しました。トイレ、シャワーは共同でした。大学の敷地は広いですが建物数はそこまで多くなく、隣のノートルダム大学と比較すると規模が小さな大学でした。学生にとって大学は大きな家のようなもので友人と生活を共にしていてとても楽しそうだと感じました。食堂では朝、昼、晩とご飯が提供され種類も豊富であったように思います。さすがアメリカでファストフードが大半でした。放課後や休日は学生同士で誘いあい、ゲーム観戦や映画を観に出かけるなどしていました。車を持っている学生も多く、ダウンタウンに繰り出す時には車を使っていました。夜には一緒に図書館で課題をしたり、部屋で何人かで出前のピザを頼んで映画鑑賞したりということもしていました。生活の大半を共にしているため、学生同士の仲がとても良かったです。到着してすぐ不安だった私たちにすぐに話しかけてくれて留学生の私たちも快く受け入れてくれて楽しい寮生活の経験ができました。

プログラム全体を通してお世話になった先生そして学生は、本当に親切で楽しくもてなしてくれました。1 週間という短い時間を最大限に有効活用し充実した留学にできました。支えてくださった皆様にお礼申し上げます。



トムスク国立教育大学（ロシア）

研修期間：2019/2/22～2019/3/18

滞在：学生寮

研修内容：ロシア語研修・ロシア文化研究研修

トムスク教育大学（TSPU）研修を終えて

人間文化創成科学研究科　比較社会文化学専攻
学籍番号1840104　高岡花江

事前情報

手続きに関することは自分の在籍大学の国際教育センターの方が細かく連絡してくださり、あちらの大学の人にも代わりに質問して教えてくださったので安心だった。自分でも何回かトムスク教育大学（TSPU）の国際センターの方と英語でメールのやり取りをした。その中で寮の場所や、空港からのアクセスを教えてもらったのがよかった。

現地の地図や期間中のイベント情報（コンサートや劇の公演など）は、あちらの大学にいる高田先生という方が事前にメールや YAHOO!ボックスでファイルを共有してくれた（高田先生は期間中もずっとお茶会やミーティング、イベントのマネジメントをしてくださった）。Facebook のグループを作ってくれたのであちらの日本語学習者の人たちと知り合う機会が事前にあった。

ロシアにこれから行く場合は、2gis という地図アプリをインストールしていくのがいい。トムスク・ノボシビルスク・モスクワなど都市ごとに地図をダウンロードでき、オフラインでもお店や路線の検索ができるのでとても便利。

ネット環境

出発前に海外用レンタル SIM カードの案内があったが、ロシアだと専用回線がなく容量の割に料金が高い。しかも月をまたぐので2ヶ月分の料金がかかるとのこと。なので自分はレンタルせずにトムスク街中の携帯ショップで SIM カードを買った。あちらではプリペイド式が主流で、自分のは1か月 20GB で 300 ルーブルだった（通話時間の上限はよくわからなかったが、足りなくなることはなかった）。料金が足りなくなった時にチャージする機械も大学やスーパーなどいたるところにあった。SIM カードを入れた当初はネットに繋がらず困ったが、通信会社の HP に設定方法が書いてあり、設定後は何の問題もなく使えた。ただ、ネット関係に詳しい現地の友人が助けてくれなかったら難しかったと思う。

寮には有線 LAN があり、パスワードと ID をもらった。しかしなぜか最後までつながらなかった。現地 SIM を入れたスマホでテザリングができたので問題はなかったが。大学内には Wi-fi があった。ただあまり安定しない。

TSPU の日本語学習者との交流

到着翌日にあちらの日本語学習者のみなさんとの最初のお茶会があった。お茶会は期間中に計 3 回あり、毎回日本語・ロシア語の相互学習をする簡単なタスクがあった。あちらのみなさんは大学生～30 歳くらいまでの社会人で、高田先生・松本先生という方たちの日本語クラスで勉強した人たち。日本語のレベルはまちまちで、英語も交えて話した。みんな信じられないほど親切で、最初に車でトムスク空港まで迎えに来てくれたことにはじまり、必要なものを買う手伝いをしてくれたり、

毎日のようにお出かけの企画をしてくれたり、自宅に招いてくれたりした。正直、行く前は交流を面倒くさく感じていたが、帰国時に一番辛かったのは彼らと別れることだった。

授業

授業は 10:20-13:45 がアナスタシア先生のロシア語クラス、14:15-15:00 にマルガリータさんの文化講習があった。

ロシア語のクラスは初めてロシア語を勉強する人向け。ただ、キリル文字はすらすら読めないと厳しいと思う。筆記体も読めるようにしていったほうがいい。私は在籍大学で1年間ロシア語の授業を取っていたので難しくなかったが、他の参加者で文字から初めての人は少し大変そうだった。文法事項の説明はシンプルで、実際に話したり書いたりする実践問題を繰り返し行う。「これは何？」「これは教科書です」「教科書はどこにある？」「机の上です」のような問答や、家族の名前・年齢・住んでいる場所・職業・好きなものなどを答える中で、動詞の人称・時制の変化、名詞の性数・格変化を使いこなせるよう工夫されていた。

文化講習は期間中にあるマースレニッツァ（春祭り）の説明、ロシアの民間信仰の説明といった講義と、ブリヌイを食べたり、人形作りをしたりする体験があった。これはブラジルからの研修生らがしばしば同席した。また、最終発表の日にダンスと昔話の寸劇も披露せねばならず、その練習も度々はさまった。休日に一度バーニャ（蒸し風呂）の体験があった。

授業とは別に、高田先生の方で文字（ブロック体・筆記体）と、名詞・動詞のテストがあった。

最終発表

授業がすべて終了した後に、1 人 5～10 分のロシア語での個人発表がある。お題は自由。パワーポイントを使ってもいい。事前に準備をしてくるよう言われていたが、自分は行ってからテーマを決めすべての用意をした。最初のお茶会で現地日本語学習者の中から助っ人を決めるが、実際はかなりゆるくいろいろな人がロシア語表現や発音を直してくれた。カリキュラムも終わりに近づくと、アナスタシア先生が発表の個人指導をしてくれる時間もあった。最後のお茶会でリハーサルを行う。

発表の日は協力してくれた日本語学習者のみなさんと、アナスタシア先生と、なぜかモンゴルからの研修生たちが見に来た。発表の準備は時間がかかって大変だったが、本番が辛かったのはダンスと寸劇である。いたたまれなかった。

研修全体としてはレッスンもみっちりあるし、遊ぶ時間もいっぱいあるし、とても充実していた。

◀中心街近くを走る路面電車

▶春祭りでシャシリクを焼くあんちゃん

トムスク国立大学研修を終えて

理学部　化学科
1620318　早川愛璃彩

授業内容

午前は英語でロシア語を学ぶという授業だった。一年間ロシア語会話の授業はとってはいたが、出発直前にキリル文字を急いで覚え、文法はさっぱりの状態からのスタートだった。しかし、授業は初歩的なことから始まり、毎日復習を踏まえながら進んでいったので短期間でかなり向上することができた。初めは買い物で何を言っているのか全く聞き取れない状態から、単語が少しずつ聞き取れるようになっていくことが嬉しく、それが勉強のモチベーションとなった。最後にロシア語のプレゼンテーションがあり、原稿や発音などロシア人の協力学生に手伝ってもらったのだが、原稿を読んで録音してもらい、それを真似て練習した。プレゼンテーションは語彙を増やしたり、正しく発音することにとても効果があった。

課外活動など

土日や平日午後は基本的に自由行動であった。わたしはスケートや歩くスキーをした。これらは、一時間170円くらいできたのでとても驚いた。また、ロシア人の学生にいろいろな場所に連れていってもらった。ギークフェスと呼ばれるアニメや漫画のフェアに行った時には、自宅警備員と書かれた警察のような服装をしている人や、日本のアニメや漫画のグッズはもちろんお菓子などもあった。日本から遠く離れた場所で日本の文化に興味関心を持っている人が沢山いることを学んだ。

学校で用意されていたプログラムとしてはスプーンの体験や郷土料理のボルシチやブリヌイを食べる体験があった。特に楽しかったのが、バーニャと呼ばれるサウナである。時間制の貸し切りで、葉っぱで体を叩いたり（血行が良くなるらしい）温まったら黒パンやフルーツを食べたり、外の雪に飛び込んだりした。ロシアのお風呂にはやはりバスタブがなく、溜まっていた疲れをこれにより取ることができた。

生活全般

トムスクは歴史的な街で（シベリア鉄道出来るまではシベリアの首都だったそう）で治安が良く街中の交通の便もとても良くて、大好きな街になった。最初の２日間くらいはどこに行くのも怖いなと感じていたが、バスの乗り方やお店の様子が分かってからは 2GIS（Google Map）のようなものを駆使して、気になるお店を調べ、一人でも行けるようになった。

ロシアの物価は基本的に安い。朝食はスーパーでパンなどを買って食べ、昼食は寮の前にある食堂で食べていた。夜ご飯は、基本的に外食だったが 200 円くらいで食べれる場所も沢山あった。個人的にはミートカフェ（мясное кафе）で食べたビーフストロガノフがとても美味しかった。

我々が行った時は、例年と比べて暖かく日中は0℃前後がほとんどで想像より寒くなかった。むしろ最後の方は雪が溶けてしまって水たまりを避けて歩かなければくらいだった。室内は寧ろ暑かったのでスカートでも問題なく過ごせた。

全体で不便だと感じたのは、トイレットペーパーが流せないとか洗濯機は 1 時間以上かかる、普段食べ慣れている料理ほとんどないので少ししんどいということだ。これらは慣れれば問題なく、日本に帰ってきてロシア料理が恋しいとさえ今は思う。

ロシア人は冷たいというイメージがあったが、言葉が通じない私たちに対して親切に説明しようとしてくれた。バスの中でロシア語で話しかけてくるおじいさんや、上記の歩くスキーの時に見知らぬ人が教えてくれたり。笑顔こそ少ないけれども、心が温かい人が多いのだなと感じた。一方で、ロシア語も英語もあまり話せない自分にもどかしさを抱いた。もし、次に彼らに会う機会があればもっとスムーズに話ができるように、努力しようと思う。

私はもしこの研修がなければ、日本から調べられる情報が少ないトムスクという場所に行くことは絶対になかったと思うので参加して本当に良かったと思っている。金銭的にも他の研修と比べてハードルが低いし、貴重な体験が出来るので是非興味を洩った人がいたら参加してみてほしい。

トムスク春季研修を終えて

生活科学部　人間生活学科
1730464　八木英里

1. 大学での授業に関して

私は、1年生の時にロシア語の文法の授業を受けていました。しかしその時はトムスクの研修への申し込みが間に合わず、今回はリベンジと思って申し込みました。お茶大でのロシア語の授業から1年間のブランクがあったため、キリル文字のブロック体・筆記体、文法事項のおさらいを少し行ってから研修に臨みました。英語で行われる、しかも進度が早いと聞いていた授業に不安があったためです。

しかし実際は、ロシア語の先生は非常に分かりやすく丁寧に教えてくださり、自分が曖昧に覚えていた箇所や複雑な部分も理解出来ました。授業の進行は確かに早く、先生も矢継ぎ早に質問を投げかけるため、反射神経を問われる部分もありましたが、語学の短期間の上達にはその方が良いように感じました。また、普段の会話で使う表現など、それまで自分が知らなかったことも授業で学ぶことが出来ました。

また、ロシア文化に関する授業も興味深いものでした。ロシアの食やおとぎ話、春祭り、婦人デーのことなど、日本と異なる文化がたくさんあり、そのどれもが自分には新鮮でした。ロシアのおとぎ話の1つを日本人学生で演じるアクティビティもありました。先生の演技指導は熱く、とても面白い劇が出来たのではないかと感じています。

2. 課外活動

授業以外の時間には、宿題をしたり、日本人学生やロシア人学生たちと出かけたりしました。近場ではレストランや博物館、コンサート、バーニャ(サウナ)などに行き、ロシアの食や文化に触れました。下の写真は、トムスク発祥の丘の大きな1ルーブルコインです。

また、最終プレゼンに向けて、日本語を学ぶロシア人学生がサポートをしてくれたのですが、彼女たちからは、言いやすく覚えやすい表現を教えてもらったり、発音の仕方を確認してもらったりしました。できるだけ互いの学んでいる言語でコミュニケーションをとろうとしましたが、私のロシア語の力がまだまだ及ばず、なかなかできなかったことが悔やまれました。

さらに、休日を利用し、寮の同室の先輩とノボシビルスクという都市へも赴きました。トムスクからはバスや電車で 4 時間以上かかる場所です。ノボシビルスクでは、トムスクで日本語を学んでいたロシア人の案内のもと、バレエ「ジゼル」や春祭り(下の写真)を見たり、ブリヌイや

シルニキなどのロシア料理を食べたりしました。しかし、三連休の最終日だったためか、トムスクに戻るバスや電車が全て満席で、翌朝月曜日に帰らざるを得なくなったのが予想外の出来事でした。授業に遅れないようにしたかったので、早朝にノボシビルスクを出るバスで帰ることにしました。そのため、バスターミナルで9時間近く待ちました。不安でいっぱいでしたが、途中3人ほどのロシアのご婦人が「中国人？」「どこへ行くの？」「何時のバス？」などと話しかけてくださり、ちょうど授業で習った表現を使いながら、日本人学生でトムスクへ行くこと、朝3時50分の便に乗ることなどを話すことが出来ました。授業の成果が出て嬉しかったです。反省点としては、行く前にきちんとノボシビルスクのことを調べておくべきだった、自分一人でもきちんと行動できるようにしておくべきだった、ということがあげられます。

帰国の前日には、留学生対抗スポーツ大会がありました。私はスポーツが苦手でしたが、私たち日本勢が2位になることができ、とても驚き嬉しかったです。

3. 生活面全般

大学の寮での生活でした。事前に聞いていたよりは快適な暮らしで、洗濯機やキッチンなども使えました。食事は、朝はパンやチーズ、自分で茹でた卵などを食べ、昼は大学の食堂、夜は学生同士でロシア料理の店に出かけたり、ペリメニ(ロシア風水餃子)を茹でたりして食べました。食堂やコンビニの食べ物はとても安く、食べ過ぎたかなと思っても 130 ルーブル程度でした。食事は美味しく、太らないかが心配になりました。私は普段から風邪をひきやすく、ロシアでは野菜があまり食べられないと聞いたので、ビタミン剤や整腸剤などを毎日飲み、何とか健康に過ごしていました。

寒さに関しては、私たちが到着する前は非常に寒かったようなのですが、滞在期間中はマイナス 10 度を下回ることはほぼなく、思っていたほど過酷な寒さではありませんでした。しかし、雪が解けてぐちゃぐちゃになっているのはあまり見栄えがよくなく、もう少し寒くても良かったかも…と考えてしまいました。

電車やバスでの移動もありましたが、運賃はほとんど現金で払うため、小銭の管理が大変でした。日本の自分が住んでいた地域とは異なり、運賃を回収する人がいたり、降りる前に運転手さんの横にお金を置いて払ったりと、慣れるまでは戸惑うことも多かったです。

ロシアでは日本と異なる文化・習慣も多く、困ること、大変なこともありました。しかし日本人学生やロシア人学生、先生方のサポートで、楽しく有意義な研修となりました。ここでの経験が今後きっと役に立つと思っています。

トムスク国立教育大学研修

理学部　生物学科４年
学籍番号　1520406　家政茜

このプログラムに合う人、合わない人

まず、こちらのトムスク国立教育大学の春季短期留学を検討している方に、求める活動や方針が合致しているかの目安になればと思い、とても個人的な概要・感想を述べる（丁寧な内容説明等は他の人が書いてくれていると思われるのでこのレポートは参考程度にどうぞ）。

留学をしたことがある方無い方、お茶の水女子大学のプログラムや別機関の留学プログラムなど経験したことのある留学も個人によって様々かと思う。この研修は現地についても日本人がいて、逐一連絡をとったり出発到着前後にもいろいろ連絡が来たりというように過保護気味なところがある。また、全体的に団体行動が基本。大学同士が協定してやっているだけあって手厚く案内や配慮をしてもらえるが、その分自由度に欠けるともいえる。結論を言うと、この研修に向いているのは外国での単独行動が不安で、すでに用意されたプログラムや授業に参加すれば満足、という人や初留学、ロシア語初心者。キリル文字は読める必要があるが、授業はとても丁寧で日本語学習者の方々もとっても優しいので全然大丈夫。ロシア語を学んだことがないけどやってみたい人にも大変オススメ。逆に向いていないのは、自力で現地を探索したり単独で自ら異国言語の海に飛び込み鍛えたい、現地を知りたい人。自分は圧倒的に後者だったため、研修が始まってからいろいろ考えるところはあった。しかし、日本語学習者のみんながとても親切で、彼らと仲良くなれたことがこの研修いちばんの価値であったと思う。なので、もし向いてない方に当てはまる人でも、シベリアに暮らす、日本文化に興味のある人々と話してみたい人はぜひ検討してみてほしい。

生活

寮はとてもきれいで設備もそろっていて（部屋にケトルがあります）、寮の前には大学と便利なスーパーがあるためあまり心配いらない。以前ロシアの別都市で留学したときは言い表せないくらい酷い寮だったためか、素晴らしい寮だと感じた。自炊も共同キッチンでできるが、あちこちに食堂があってスーパーのパンもおいしいので私はしなかった。自分で空き時間あちこちめぐっておいしい店探しをするのはオススメ。ロシア語が話せない外国人にも感じのよい店員や、日本語でいう「らっしゃっせ～」のように、ベラベラで聞き取りにくい店員や、接客中雑談してる店員など…日本とは全然違うし、団体旅行で行くと大抵見られない姿に出会えるので面白い。

寒さについては東北以北出身の人はあまり心配しなくて大丈夫だと思う。しかし、いつ大寒波の年が来るともいえないので準備はしっかりしておくに越したことはない。旅費の次にお金をかけたのは身を守るための防寒だった。現地の人は、日本人がちょっとだけ外にでるときに軽装だと心配してきて“帽子手袋コートマフラーは絶対！”といってくる。一瞬なら平気に感じるが、少しでも長く外にいるとこれらの重要性がわかる。室内は暖かいので普段の部屋着と防寒装備、あと劇場に行きた

い人は荷物に余裕があったらかわいいフォーマルな服装もあると便利。生活費については心配不要で、レートにもよるが食品など生活必需品の物価は安い。

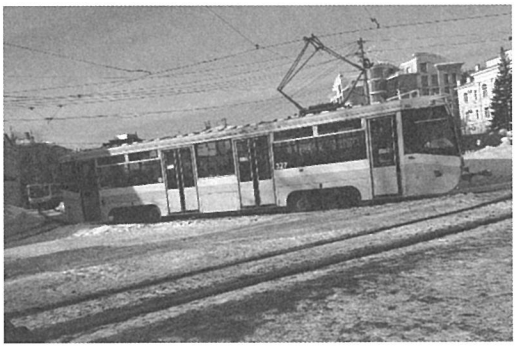
おすすめ＆良かったこと

個人的にこの研修で印象に残ったことを挙げる。プログラムには様々な活動があり、それにみんなで参加するのが平日の過ごし方だが、自分で自由に動きたくて遊んだとき面白かったことを紹介する。

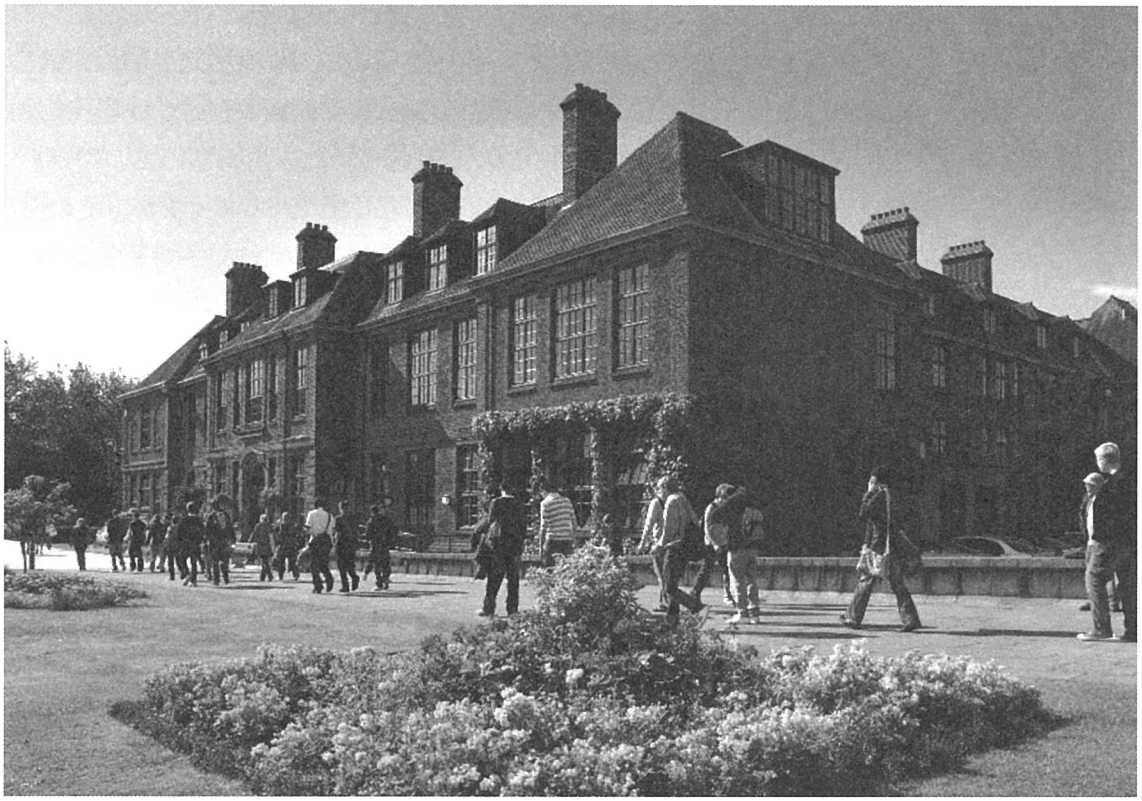
- まずトムスクは国外からのアクセスが悪い。逆に言えばこの研修は結構貴重な機会でもある。トムスクから電車やバスで 5 時間ほどでノボシビルスクにもいけるため、シベリアを満喫することを推奨する。私はロシアに来たらバレエを見て帰ると決めて来たので、ノボシビルスクの劇場に行った。簡易寝台（オープンタイプ）の切符を買うのは初めてだし、英語が一切通じないので不安もあったが、自力で購入できたときの達成感と、面倒くさがらず対応してくれたカッサのおばちゃんへの感謝でちょっとほっこりできた。電車は日本にはないタイプなので面白い。常連現地客の持ち込み装備も面白い。
- トムスクには中心街的な場所があって大学寮の近くからトラムやバスで遊びに行くことが多かった。しかし歩けなくもない距離だったので寮から街まで公共機関を一切使わず散歩をした。ふだんバスは混雑していて車窓から景色を見る暇はないし、歩きでしかできない貴重な発見はたくさんあるのでこれは天気のいい土日にうってつけだと思う。トムスクは夜間明かりが乏しいので、昼間を推奨する。
- とにかく日本語学習者の皆と交流できたのが良い機会だった。互いの言語の俗語を教えあったり、好きなロシアのアーティストの話をしたりしてとても楽しかった。学生の方々は大体英語が通じるのでコミュニケーションに不便はなかったし沢山助けていただいた。日本語を勉強しているトムスクの皆さんは本当に親切な方ばかりなので、言語学習も留学生活もとても良いものになった。

番外編：水と胃腸

ロシアの水は硬水。軟水を普段のんでいる日本人の一部は急にカルシウムやマグネシウムの多い硬水に切り替えると胃腸炎みたいな症状を起こしやすい。モスクワ生活をしたときに平気だったため、今回完全に油断して 38.5 を超える発熱を伴う胃腸炎になった。トムスクにきてから飲んだ水の成分をみたところ、マグネシウムがモスクワにて飲んでいたメーカーの数倍含まれていたことが判明。もし胃腸が弱い自覚のある人はマグネシウム含有量約 40mg/100ml 以下のものを買うことを薦める。



UNIVERSITY OF Hull



ハル大学（イギリス）

研修期間：2019/2/8～2019/3/25

滞在：学生寮

研修内容：英語・英国文化研修

ハル大学研修を終えて

生活科学部人間生活学科２年
1730401 饗場有希

授業内容

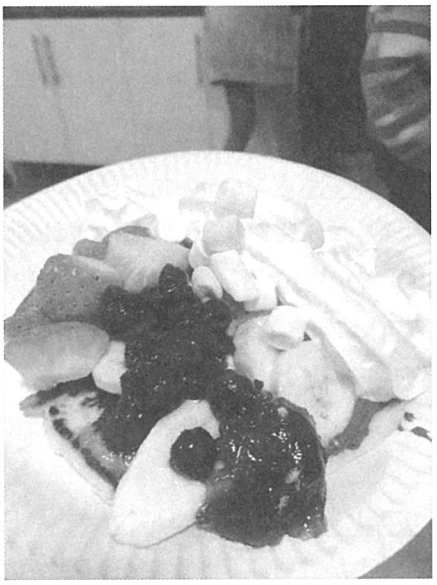
授業内容は基本的に最後のエッセイを書くための授業をしているというようなものであった。具体的な内容としては、アカデミックな英語の使い方、変形の仕方などである。日本で学んだことと重複することもあったが、ネイティブの人の文の作り方は、今後の役に立つと思うことができた。宿題は、毎週あるクラスもあるので、地道にやっておくと後が楽になった。また、先生によっては前回の授業の振り返りをすることもあるので、復習もしておくと理解が深まると感じた。クラスメイトは様々な国出身の人であったが、その分個性などもそれぞれで楽しむことができた。他の生徒に合わせて、日本人も積極的に授業に参加していくべきだと思った。もちろん、間違えることもあったが、疑問に思っていることなどは、ある程度聞いておいたほうが、自分のためになると考えられる。６週間は長いようで短いので、その場その場、後悔のないように取り組むべきだと思う。それは授業だけでなく、普段の生活や交友にも言えることで、自分の目標を思い出す時間を作り、それが達成できているかどうか見直しながら生活する必要があると思う。

課外活動

土日に Japanese society の人たちが計画してくれる課外活動があるほか、日本人同士でのロンドン旅行、個人旅行など自分で計画することができたのは大きな活動であった。受け身でいるというよりは６週間を自分の時間として、やりたいことをやってみるべきだと思う。もちろん、一人でやるだけではなく、イギリスの人々と関わることで、新たな考え方や知識を得られるので、society のイベントには積極的に参加できてよかったと思う。ただ、常に共同生活、学校、課外活動と一人の時間がほとんど感じられなかったため、多少一人でいる時間を作った時もあった。人によっては私のように、一人の時間がないと精神的に疲労が溜まる可能性があるので、そこはうまく配慮する必要があると思う。

生活全般

生活に関しては、最悪の状況を予想していったため、実際は大きな不満はなかった。しかし、前年度の参加者もいっていた通り、ヒーターがほぼ壊れていたり、シャワーの詰まりで水が流れなかったりと不都合も多々あった。そういう時に迅速に対応してくれた人がいたり、みんなで協力できたからこそなんとかなったので、今後行く人も迅速に対応をすべきだと思う。ただ今回、私も含めて一定の人に任せてしまうところがあったので、共同生活をする上でも平等に責任が分配されるようルールを決めたり、自分だけではなく、他人と暮らしているという、他人のことを考えた行動をしないと、お互いにストレスが溜まってしまうと思った。常に、自分のしたことは自分で後片付けしているかなど注意する必要があると思う。今回はこのことが私の反省すべき点でもあった。



また、学校にバスを使っていっていたが、最後の方は徒歩で行っていた。小１時間くらいかかるが、節約にもなるし、運動にもなるので、歩くのが嫌いでない人には勧めたい。

ハル大学研修を終えて

理学部　情報科学科
学籍番号　1620532　廣田梨那

1）授業内容

授業は、先生がゆっくり話してくれるのと、わからないことは質問すると丁寧に説明してくれるので、授業についていけないことは特にありませんでしたが、クラスメイトが中国人やアラブ人などで、特有のアクセントがあるので、クラスメイトとコミュニケーションをとるのが少し難しく感じました。それでも、クラスメイトは皆フレンドリーでランチに行ったりと楽しかったです。エッセイやプレゼンの準備は時間がかかりましたが、終わってしまえば大したことではなかったです。

2）英語について

時間をかけて英語を読んだり聞いたり理解するのはできるのですが、英会話が得意でなく、最初は相手の言っていることが分からなくても、分かったふりをして適当に反応していました。それで友達に分からないなら分からないと言ってほしい、と言われ、自分がきちんと理解できているかこまめに相手に確認するように意識しました。1 対 1 の会話だと、相手もゆっくり喋ってくれたり、私が何か言いたそうにしていたら、待ってくれたりするので、会話を楽しむことができるようになりました。でも、やはり、英語を話す人が3人以上いると、会話のスピードも速く、何を言おうか考えている間にトピックが変わったりするので、最後まで苦戦しましたが、英語は話せなくても、表情を使ったりして、会話に入ろうと努力しました。プログラムの途中で会った日本人女性が、文法とかは間違ってもいいからとにかく英語を話す、という気持ちが大事と言っていました。本当にその通りだと思います。プログラムの最終日、次会うときにお互いのことをもっと理解しあえるように、これからも英語の勉強を続けてほしいし、自分もこれから日本語の勉強をする、と友達が言ってくれて、すごく嬉しかったのと同時に、これからの英語学習のモチベーションアップにつながりました。まだまだ課題は山積みですが、引き続き頑張りたいです。

3）生活全般

6 週間という期間が個人的にはちょうどよかったです。ランダムに Language Exchange Partner が割り振られるので、6 週間という限られた時間で友達を探す時間が省けましたし、皆日本に興味のある人達ばかりで、すごく親切にしてくれました。ほぼ毎日放課後に現地の友達と会っていました。ご飯は想像より美味しかったですし、お酒が好きな私にとって、イギリスのパブは最高でした。気温は思っていたより寒くはなかったですが、私の部屋は最後まで暖房がつかなかったり、朝早くだとシャワーが水しか出なかったりしたので、暖かい服を持って行って正解でした。学校から寮が少し遠くてバスに乗らないといけないのが面倒だったのと、寮周辺は夜だと少し出歩くのが怖かったです。

大学の図書館で遅くまで勉強したい時や、寮のシャワーやトイレが使えなかったりした時は、よく大学の近くに住んでいる友達の家に泊まっていました。ハル大学に通っている学生は大学の近くに住んでいる人が多かったです。私たちお茶大の生徒は寮の同じ階で、シャワー・トイレ・キッチンを共有で使っていました。最初にある程度ルールを決めておいたのが良かったみたいで、特に揉めることはありませんでしたが、共有スペースを散らかしたままにしていたことがよく問題になっていました。

個人的な事件としては、ロンドンの人ごみのマーケットに行った際に、ポケットに入れていたはずのスマホが盗まれてしまい、少し大変でした。最後の土日だったので、それまでに撮った写真を失ってしまったのも悲しかったですし、私がスマホに頼りすぎていたのですごく不便でした。これからは写真を Google フォトと同期しようと思います。警察に盗難証明書をもらうことしかできないので、開き直って、その後は人一倍楽しむつもりで最後の一週間を過ごしました。6 週間という期間でしたが、全力で泣いた日もあれば、全力で笑った日もあって、文化の違いでストレスを感じたこともありました。それでも得られたものは本当に多く、何でも話せる友達、自分の素をさらけ出せる友達を得られたのが一番の宝物です。プログラムが終わって、そこで出会った人達に会えなくなるのは寂しいですが、6 週間だけの友達ではなく、これからも連絡を取り続けられる友達を得られたと確信しています。

ハル大学研修を終えて

生活科学部　人間生活学科
学籍番号 1730439　鈴木　雪生

授業内容

2 クラスにランダムに分けられました。私の所属したクラスは中国(4 人)、オマーン、カタール出身の方とお茶大生 6 人で構成されていました。クラスにより授業の時間も異なり、私のクラスは下のようなスケジュールで授業が行われましたが、もう一つのクラスは 9 時に始まり午前中には授業が終わっていました。リスニングやグラマー、エッセイの授業などがありました。

	9:00	9:15	9:30	9:45	10:00	10:15	10:30	10:45	11:00	11:15	11:30	11:45	12:00	12:15	12:30	12:45	13:00	13:15	13:30	13:45	14:00	14:15	14:30	14:45	15:00	15:15	15:30	15:45	16:00	16:15	16:30	16:45	17:00	17:15	17:30	17:45	18:00
Mon									100003_B18_T1T1/01, 100004_B18_T1T1/01, 49123T1/01, 49125T1/01_JT <25-29> UHELP [Tut] Hunter, Duncan Tut FERENS-221 Lab 25-29												100003_B18_T1W1/01, 100004_B18_T1W1/01, 49123W1/01, 49125W1/01_JT UHELP [Work] Jopp, Howard Work FERENS-221 Lab 22-32, 35														
Tue									100003_B18_T1S1/01, 100004_B18_T1S1/01, 4912351/01, 49125S1/01_JT UHELP [Sem] Green, Annette Sem FERENS-221 Lab 22-32, 35												100003_B18_T1W2/01, 100004_B18_T1W2/01, 49123W2/01, 49125W2/01_JT UHELP [Work] Jopp, Howard Work FERENS-220 Interpreting Suite 22-32, 35														
Wed	100003_B18_T1S2/01, 100004_B18_T1S2/01, 4912352/01, 49125S2/01_JT UHELP [Sem] Green, Annette Sem FERENS-220 Interpreting Suite 22-32, 35								100003_B18_T1T2/01, 100004_B18_T1T2/01, 49123T2/01, 49125T2/01_JT UHELP [Tut] Dugdale, Janet Tut FERENS-220 Interpreting Suite 22-32, 35																													
Thu												100003_B18_T1T3/01, 100004_B18_T1T3/01, 49123T3/01, 49125T3/01_JT UHELP [Tut] Dugdale, Janet Tut FERENS-222 Lab 22-32, 35																100003_B18_T1W3/01, 100004_B18_T1W3/01, 49123W3/01, 49125W3/01_JT <24-26, 28-29> UHELP [Work] Pattison, Julia Work BRYN-TR6 24-26, 28-29								
Fri									100003_B18_T1S3/01, 100004_B18_T1S3/01, 4912353/01, 49125S3/01_JT <24-29> UHELP [Sem] Hutchinson, Ian Sem FERENS-212 Lab 24-29																													
Sat																																					
Sun																																					

課外活動など

2/8(土)夜に到着し、9 日に買い出し食事会、15 日に Beverly、22 日に York、3/1 に Leeds に、そして平日に食事会、最終日に送別会をジャパニーズソサイエティの方が企画してくださいました。Fatima という女の子も毎週何かしらのイベントを企画してくれました(パンケーキデー、水族館、トランポリン、ボーリング等)。また、language exchange partner との交流もあり、毎日何かしら予定がある、という人が多かったです。ミドルスクールでのジャパンデーは 3/11 に授業を休み一日がかりで行いました。

Language exchange partner という制度があり、一人に 4~5 人の日本語学習者の学生との交流の機会が与えられます。はじめにメールを送っても返信がこない場合もあります。私は 3 人の学生と毎週一人一回 1 時間半程度おしゃべりをしました。他の方は 2~5 時間会っていたようです。友達に誘ってもらい、他の方と遊ぶことも結構ありました。

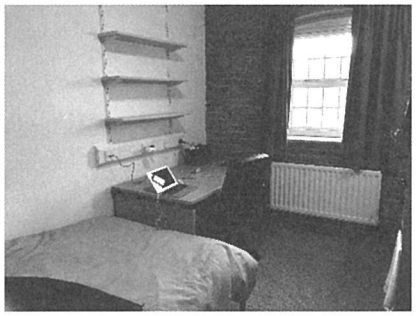
ロンドンに 3/2-3 と 3/16-17 の二回旅行に行きました。

生活全般

暖房が壊れていました。到着日の夜に連絡し、月曜日に修理すると言われ、その後も毎日連絡しましたが直ったのは一週間後でした。早めに連絡することをお勧めします。また、2 部屋は最後まで暖房がつきませんでした。今年は 8~16 度とかなり暖かく耐えられたそうですが、昨年は零下に及んだとのことです。暖房がつかないことを到着翌日の買い物の際ジャパニーズソサイエティの方に

報告したので、追加の布団を購入ししのぐことができました。また、同じ寮で生活している Fatima からも管理人に連絡してもらいました。彼女からの連絡がなければ管理人は動かなかったと思います。

今年はフロア貸し切り状態で、各部屋には小さなタンスとクローゼット、勉強机、ベッド、洗面台があり、シャワー2 つとトイレ 5 つは共用でした。初日に寮の Wi-Fi がつながりませんでした。



シャワーのグループ、シャワーを使うときのルール(片付け等)、共用品の範囲(ペーパー類、アルミホイル、タオル等)は決めました。食器をすぐに洗うこと、ゴミ捨ての順番、自宅での食事会の片付け等も決めるべきだったと思います。誰かがやってくれるだろう、と考えて放置する人がいました。大抵同じ人が働かないもしくは働くことになるので、決めておいた方が気持ちよく過ごせます。

パブ、テスコ、バス、大学、寮等でフリーWi-Fi に繋げます。私は比較的スマホを使う方ですが、3G 一日 300MB の最安プラン 2000 円程度で十分でした。300MB を超える日はなかったです。海外 sim も価格が同じで荷物が減るので便利そうだなと思いました。

その他の反省・希望等

- 自分の好きな調味料を持っていくと良い。私は小さいマヨネーズを持って行きましたが、マヨネーズと味噌と醤油が好きなので、味噌と醤油も持っていけばよかった。
- 平たい皿ではなく深い皿の方が使いやすい。
- お茶はなくても気にならなかった。フリーズドライの具沢山の味噌汁と雑炊、にゅう麺が美味しかった。
- 日本のお菓子(ポッキー、キットカット、コアラのマーチ)を持って行ったがあまり出番がなかった。コアラのマーチが好きでロンドンに行くとよく買う、と喜んでくれたパートナーはむしろお菓子を入れていたジップロックに喜んでいた。また、クラスメートの中国人は消せるボールペンを他の学生からもらっていた。
- Short term visa を事前に取るよう言われ、1 万＋優先手続き 3 万かかりました(すべての関係機関の仕事が遅く、書類が届くのが遅れるので必要になりました)。しかし現地で楽々 visa はとれるので、完全に無駄金でした。
- 今年は帰国便が午前 6:10（昨年は 10 時台？）だったので、午前3時半に寮を出発しなければならず、辛かった。トランスファーの時間が 6 時間もあった。

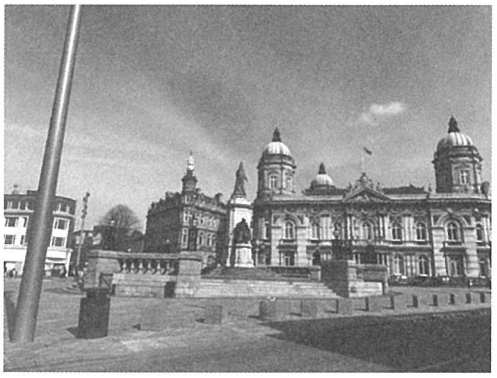
感想

英語を聞く、話す機会が当然ながら多く、参加してよかったと感じています。語学力が著しく向上したとは感じていません。むしろ語学力より、生活能力（初の一人暮らしのため）や社会性が向上したと思います。また、腕試しやモチベーションを上げる効果はあります。英語を話すことに対するハードルも低くなりました。これからも継続して学習を続けていきたいと思います。

ハル大学研修を終えて

生活科学部　人間生活学科
1830428　縄野　早穂

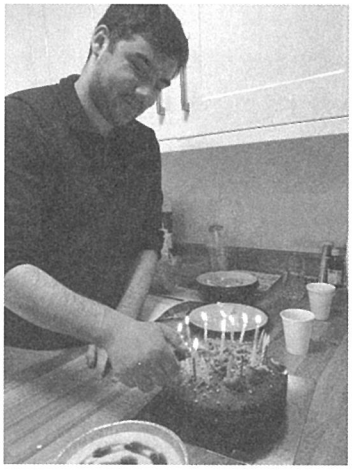
授業内容について



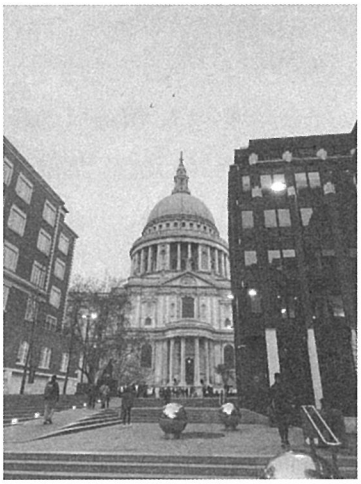
大学の授業は、留学生向けのコースに参加する形でした。都市化というテーマに沿って、スピーキング、ライティング、リスニングのそれぞれに特化された授業が行われました。実際に授業を受けるまでは自分の英語力に自信がなくとても不安でしたが、全員留学生のクラスということもあり、発言しやすい雰囲気で楽しく授業を受けることができました。それぞれの授業で家で取り組む課題が出るのに加えて、最終課題として都市化についてのエッセイとプレゼンがありました。毎週の授業の中でエッセイの構成や引用、トピックの決め方、プレゼンの方法などについての授業があったので、想像していたよりも大変ではなかったように思います。今後の英語学習に役立つ知識が身についたので、継続していけたらと思います。

課外活動について

授業の中でも英語力が向上したと思いますが、それ以上に現地の学生と交流することでスピーキングやリスニングの力が伸びたと感じています。お茶大生一人一人に 4 人ほどの Language exchange partner がつき、課題を見てもらったり放課後に遊んだりしました。毎週の課題のエッセイやプレゼンを見てもらいフィードバックをもらえたのはとてもよかったと思っています。皆日本に興味を持って日本語を勉強している人ばかりだったので、共通の話題で盛り上がることも多くとても話しやすかったです。帰国後も連絡を取り合う友達ができ、よい文化交流の機会になっています。私のパートナーには英語を母語とする学生だけでなく、フランスからの留学生もいたので、フランス語の勉強も一緒にすることができました。それに加えて、毎週 Drop in session という日本語を学習している学生と日本語で会話をするというイベントがありました。英語やフランス語を教えてもらうだけではなく、こちらから日本語を教えたり日本語の課題を見たりする機会があり、普段何気なく使っている日本語について説明するのは難しかったですが、日本語教育についてより関心を深めるよいきっかけとなりました。



毎週末は、Japanese Society の学生が日帰りでいろいろな場所へ遊びに連れて行ってくれました。平日も、お茶大生の住む寮に Society のメンバーが遊びに来てくれて一緒に料理を作ったり、寮



の近くのレストランやパブにご飯を食べに行ったり、水族館やスケートに行ったりしました。

また、お茶大生だけでロンドンに旅行しに行きました。旅行先では、大英博物館やナショナルギャラリー、セントポール大聖堂など多くの文化的遺産を訪れることができ、大変充実した旅行となりました。ロンドンの治安について心配していましたが、用心していれば危険な目に遭うことはありませんでした。

生活全般について

寮では、同じフロア全員がお茶大生だったので困ったときに互いに助け合うことができました。一人部屋にはベッド、デスク、小さい洗面台がついていて、シャワー、トイレ、キッチンは共用でした。食事については、寮のキッチンで自炊をするか、スーパーで買ってきたものを食べるか、外へ食べに行くかでした。外で食べると10ポンド近くかかることが多かったです。寮から学校まではバスに乗って通うので、その交通費も考慮しておいた方がいいと思います。他には、日本に比べて店が閉まる時間がとても早く、朝は遅いので頭に入れておくべきだと思います。寮の近くはホームレスが多く治安が良くないので、遅い時間に一人で歩かないことやスリに気をつけることなど、防犯の意識は常に持っておかなければならないと思いました。

おわりに

今回の研修を通して、得られたものは多くありました。知らない場所で 2 ヶ月近く生活することで大きく成長できたように思います。英語力を伸ばすためには、自分から積極的に話しかけることがとても大事なのだと学びました。現地に友達ができたことで、英語学習のモチベーションがかなり高まりました。お茶大のサマープログラムで出会ったハル大学の学生と連絡を取り合い、ハルで会うことができました。夏に会ったときよりも英語のスキルが上がったと言われたのがとても嬉しかったです。今年の夏には彼らが日本に遊びに来るそうなので、それまでに英語力を高めて行けたらと思います。

ハル大学研修を終えて

理学部　情報科学科
1720529　鳥山　菜海子

・授業内容

授業は週に9コマ×105 分授業で私のクラスは授業時間が日によって変則的でした。同じクラスには中国人とアラブ人がいて彼らも英語を勉強しているのですが、一緒に英語を勉強する仲間がいて非常に心強かったです。授業内容はリスニング、ライティング、スピーキング、リーディング、文法を勉強しました。授業ではライティングに力を入れているらしく、大きなエッセイの他にも小さなエッセイの課題を2つほどやりました。エッセイの書き方はしっかりと教えてくれるので、非常に勉強になります。授業中にスピーキングの練習や、課題の確認で近くにいるクラスメイトと話し合ったりする場合があるのですが、国籍がミックスされているため授業中も会話の練習ができました。よくわからない課題があった時には、クラスメートに聞いたり、エクスチェンジパートナーにわからない部分を教えてもらったりしていました。最終週にはパワーポイントを使った発表があり、英語でプレゼンをするという非常にいい機会に恵まれました。

・課外活動など

放課後は大体エクスチェンジパートナーやクラスメイトとご飯を食べたり、カフェでお茶をしたりしていました。エクスチェンジパートナーとはあまり会っていない友達もいましたが、語学交流だけでなく、ご飯とか飲みにとか行ってたくさんお話しする機会を増やすと英語が上達すると思います。また、私はエクスチェンジパートナーに同じ専攻を勉強している人がいたため、英語の授業だけではなく、その人のとっている授業に何度かもぐりしたりしていました。コミュニケーションは主にMessenger や WeChat を使っていました。なぜ WeChat と思うかもしれませんが、クラスメイトや日本語の授業には中国人が多いため、WeChat は入れておくと便利です。最初は人を誘うのを苦手と言っていたような子でも、最後の方では積極的にエクスチェンジと会っていたりと、課外活動では勉強以外での成長が見られたなと思いました。

・生活全般

ハルでの生活は思ったよりも快適でした。今年の気候が例年に比べて非常に暖かかったおかげかもしれませんが、気温は東京とそこまで大きな差はありませんでした。私の部屋はヒータが壊れて

いて、最終日まで治らなかったのですが、今年に関しては大丈夫でした。ですが防寒対策はしっかりしておいておくといいと思います。それとシャワーは水圧が弱いのと、硬水で髪がゴワゴワになるため、日本から持ってくるか、現地で少し高めのリンスを買うといいと思います。ご飯に関してはイギリスのご飯はマズイと言われますが、全然そんなことないです。パブにある伝統的なパイ系料理はとても美味しかったし、お酒に関しては個人的に日本よりも好きです。日本米も現地で買うことができるので、日本食に恋しいときは食べていました。ただ寿司に関しては微妙で、刺身は存在すらしないので、行く前にたくさん食べておくといいと思います。

・休日の過ごし方

休日は毎週どこかにお出かけに行っていました。最初の三週間はジャパニーズソサエティがどこかに連れてってくれて、ショッピングしたり観光したりという感じなのですが、最後の2、3週間は空いていたので、私はロンドン、バーミンガム、ブラックプールに行きました。友達はエディンバラやオランダに行ってる子もいて、やる気次第で休日は楽しめると思います。お出かけは自分で宿をとったり、アクティビティに申し込んだり、自分で生き抜く力がつきます。おかげで帰りのトランジットの時間にアムステルダムの観光まで行くことができるようになりました。申し込みにはカードを使うのが一般的で、上限10万のカードを使っていたのですが、イギリスに来て何度か止まりそうになった思い出があるので、何枚か持つか、現金をそれなりに持っていくことをオススメします。

・最後に

最初は6週間も滞在するなんてと申し込んだ自分を責めましたが、終わってみると案外あっという間でハル研修でかなり成長したと思います。他の参加者の子も最初とちょっと雰囲気が変わって成長したなと思った子も何人かいました。私がハル大学の研修を選んだのは一番期間が長くてコスパが良かったからという理由でしたが、6週間という期間は勉強するには非常に丁度いい長さで、ランゲージエクスチェンジのおかげでたくさんの友達ができました。

ハル大学研修を終えて

理学部　情報科学科
1820538 村上夏輝

＜授業内容について＞

授業の内容は全然難しくなかったです。大学の学部に入るために英語を勉強している留学生の方々と一緒に学ぶので、中学から高校ぐらいのレベルの英語の授業であったと思います。文法を学ぶ授業の他にプレゼンテーションのやり方や、英語を構成するものについての授業がありました。先生の言ってることさえ理解できれば、内容はお茶大生ならついていけると思います。一番授業で鍛えられたのはリスニング力であったと感じました。

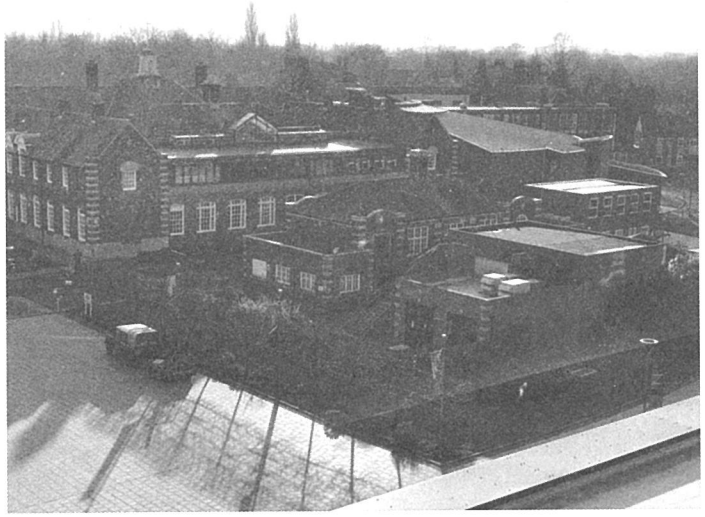
＜課外活動について＞

休日はJapanese Societyの方々が様々なところへ日帰り旅行を計画して下さいました。平日も午後にいっしょに遊んだりして、ここでかなり話す力や聞く力、また外国の文化と交流ができたと思います。イギリスの方ばかりという訳ではなかったので、様々な国のことが知ることが出来て面白く、また貴重な経験でした。過ごす時間が一番長かったので、友達もたくさんできました。学校では、Language Exchange Partnerという日本語のクラスを取っている方とお話をしたり、課題を見てもらったりしました。日本語のクラスを取っていると言っても、初歩の段階なので、日本語を教える事よりは、英語で接することの方が多かったです。

＜生活全般について＞

寮は綺麗とはいえなかったです。部屋によっては掃除が必要なこともあるので、気をつけた方がいいと思います。食事に関しては、心配していたよりも全然問題無かったです。食パンやパスタは日本よりも安いので、朝ごはんや自炊はそういうものに頼っていました。バス

停から寮まで約２０分かかるのですが、その間にいくつかスーパーは有りますし、レストランやパブも有ります。スーパーは駅前（大きいバス停もそこ）に大きなテスコが有り、ほとんどがそこで手に入りました。寮には最初電子レンジが無かったのですが、２週目ぐらいにリビングにおかれていました。それからは冷凍食品などにもチャレンジ出来ました。今回は私たちが住んだ階にはお茶大生しかいなかったので、ルールを決めて生活できたのが良かったです。



ハル大学研修を終えて

理学部 物理学科
1720202 石田 茜

動機

私は今回、英語の能力（特にスピーキング）を向上することを目的にして研修に参加しました。大学で英語のクラスを履修していれば、話す機会もなくはありませんが、授業で発言するのが得意ではなかったので、英語しか通じない環境に身をおいてみよう思ったのです。そして、せっかくなら長く海外に滞在してみようと思い、短期研修プログラムの中で研修期間が最長のハル大学を選びました。

授業

お茶大生は2つのグループに分かれ、それぞれハル大学で普段英語を学んでいるクラスに一時的にお邪魔して授業を受けていました。途中参加という形でしたが、私たちのために先生方も準備をして下さっていたので、思っていたよりもすんなりと授業に入っていくことが出来ました。1クラス約11人。私のクラスメイトの出身地は中国やサウジアラビア、イラクで中には仕事や子育てをしながら通っている方もいました。全部で5人の先生方が私のクラスを担当していました。全体として「都市化」をテーマにして授業が進められていき、最後から2週目に1000語のエッセイを提出、最終週はエッセイに関するプレゼンテーションをしました。授業や宿題の難易度は難しすぎることはなかったので、心配する必要はないと思います。

課外活動

お茶大生1人に対して現地の日本語学習者が4〜5人割り当てられ、英語を教えてもらったり日本語を教えたりするLanguage exchangeという活動がありました。私はパートナーになった方とただお喋りしたり、エッセイのアドバイスをもらったり、日本語の課題を手伝ったりしました。Language exchangeの頻度はパートナー1人に対して週1回くらいでしたが、それは自分の積極性次第で調節可能だと思います。みなさん、英語がうまく出てこない時もどうにか理解しようと努力してくれました。とても優しい方たちでした。

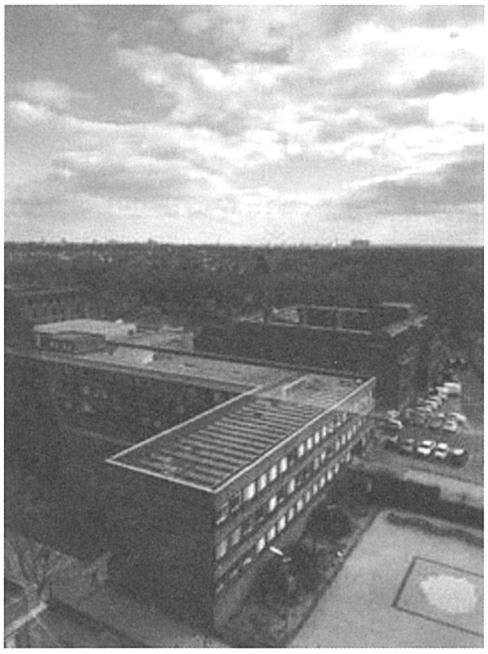
この他にJapanese Societyという日本語同好会のようなサークルのメンバーが空港での出迎えや買い出しの手伝いなど色々な面でサポートして下さいました。また、Beverly, York, Leedsへの日帰り旅行やバーベキュー、パンケーキ作りも企画して下さり、彼らのお陰でとても楽しい時を過ごすことができました。昨年の報告書を読んでJapanese Societyのメンバーにお世話になることは知っていたのですが、予想以上の親切さに驚くほどでした。彼らへのお礼として日本からのお土産を準備していくことをお勧めします。

寮

例年の報告書にある通り、はじめほとんどのヒーターが壊れていました。直るのに1週間程かかり、その間は寒さで風邪をひきそうになったので、寒さ対策は大切だと感じました。また、wi-fi と電子レンジの環境が整うまでにも到着から1週間かかりました。キッチン、トイレ、シャワーは共同で使っていました。キッチンに冷蔵庫は何台かありますが、調理器具はなかったので、買ったり Japanese Society の方が貸してくれたりしました。困ったことがあった時、SNS で管理人の方に連絡を取れば大概のことは解決して下さったので早めの行動をとって、快適に過ごすことをお勧めします。

おわりに

今回の研修を通して、私は英語をとりあえずでも話してみる勇気を得ることはできたと思っています。現地の方々は私たちの英語が流暢でないということはよくわかっています。間違って当たり前で、それを恐れて行動に移せないのはもったいないことだと思いました。頑張って伝えようとすれば、相手もどうにか理解してくれようとします。わからなかったらわからないと言えることも大切だと感じられました。たった6週間ではありましたが、少しは英語スキルが上達したと思える研修でした。



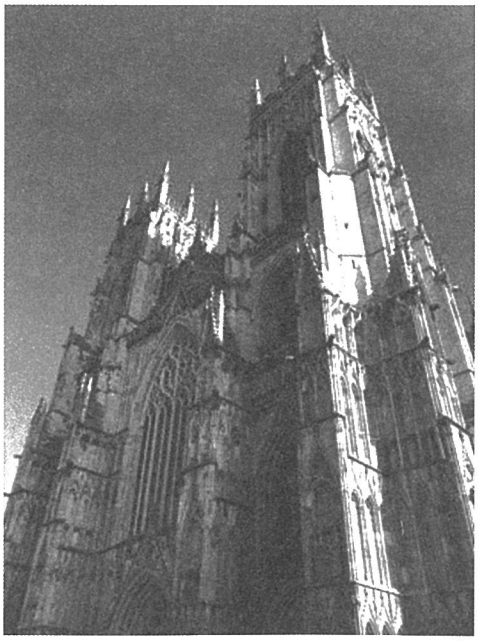
ハル大学研修を終えて

文教育学部 言語文化学科
1810280 山口明華

授業内容

105分の授業が、週に9コマずつ行われました。授業の内容は、主にListing, Writing, Readingが中心です。最終的な課題で1000wordsのessayが出るので、どの授業でも、そのテーマであるurbanizationについて多く扱います。クラスは、日本人生徒とその他の国籍の留学生が約半分ずついます。私のクラスには、イラクやサウジアラビア、中国から来た生徒がいました。クラスメイトと話す機会は、授業内外で多くありましたが、お互いに未熟な英語で話すので、意思疎通が難しく感じました。ただ、毎週、週末の過ごし方を聞いてくれたり、課題の進捗を聞き合ったり、よく話しかけてくれたので、楽しかったです。

課外活動



課外活動で主にあげられるのは、Language Exchange と Japanese Society の方との交流かと思います。

Language Exchange は一人につき、四、五人程度のパートナーが割り振られ、essayを見てもらったり、時間を合わせて一緒に食事をとったりする制度です。どんな人とパートナーになるかによって、関わり方も大きく変わってくると思います。私は、パートナーに忙しい人が多かったので、あまり会えませんでしたが、課題についてはしっかりと見てもらえたので、良かったです。私自身はパートナーと英語の先生と生徒のような関係でしたが、友達のような関係の人も多くいたと思います。

Japanese Society の方との交流では、イギリスについた初日から、色々なサポートをしてくださいました。週末にはBeverly, York, Leedsへの日帰り旅行を企画してくださったり、平日もバーベキューをしてくださったり、たくさんお世話になりました。その他にも、公式のイベント以外でも、メンバーの一部で企画をしてくださったり、ご飯に誘ってくださったり、一番多くの時間を一緒に過ごすことになると思います。

その他にも、現地の中学校を訪問して、浴衣の着付け体験や盆踊りの体験を行いまし

た。現地の生徒から英語で質問されたり、難しく感じましたが、今年度は留学5週目だったので、自分の英語力の向上を感じることもできたり、イギリスの子供が日本にどんなイメージを持っているのか、肌で感じることができて、良い経験になりました。

また、個人でロンドンなどの都市に旅行に行く人もいました。私はロンドンに行きましたが、とても楽しかったですし、観光地なので、日本人だけでどこかに行ってみるのなら挑戦しやすいと思います。電車やホテルを海外のサイトからとったり、観光地のチケットもオンラインで購入するほうが安いので、そういった経験もしてみると良いと思います。また、チェックインなども、日本人だけでやってみるのは、自信にもつながると思います。

生活全般

食事は思っていたよりも美味しかったです。ただ、全体を通して物価が高いので、自炊などを組み合わせつつ節約できると金銭的にも良いと思います。寮から大学が遠いので、交通費で合計1万円程度かかります。想定外の出費だったので、あらかじめ把握しておくと良いと思います。洗濯機乾燥機も寮のものを使えます。キッチン用品は何もないので、ほとんどは自分たちで揃えましたが、意外と安く買えました。入寮した時点で、部屋のストーブが付いていなかったり、シャワーの排水溝が詰まって流れなくなったり、色々なトラブルがありましたが、大抵のことは管理人さんに伝えれば長くて1週間程度で直してもらえました。ただ、何も伝えないと、ずっとそのままなので、できるだけ早く連絡をとると良いと思います。

また、今年度は前述したJapanese Societyの方で、同じ寮に住んでいる方がいらしたので、その方が気にかけてくださり、管理人さんに働きかけて電子レンジなども用意していただけました。今年度は、ハルでは異例の暖かさだったらしく、マフラーや手袋はいらない気候だったのですが、例年のこの季節は雪が降るような寒さらしいので、防寒具はたくさん用意した方がいいと思います。お金は、全体で20万程度かかるとみて良いと思います。週末にロンドンなどに旅行に行くかや、嗜好品やお土産をどの程度買うかによっても変わると思いますが、事前に10万程度と聞いていたのですが、それでは足りないと思います。食事は、外食が多くなってしまったり、自炊も食材が日本とは違うこともあり、カロリーの高い食生活になり、出国前に比べ、かなり太りました。気にする方は気をつけると良いと思います。他にも、日本と異なることは多くありますが、大体のことは、一緒に留学しているお茶大生か、寮の管理人さんか、Japanese Societyの方が助けてくれます。みんなで協力しあって楽しい留学生活を送ってください。

ハル大学研修を終えて

文教育学部　人文科学科
1810122 佐藤　友香梨

1. 授業について

1時間45分の授業が1日1～2コマ程度で週9コマです。お茶大生は2つのグループに分かれて様々な国籍の学生に混ざって授業を受けました。私のクラスは12人で、中国人・オマーン人・カタール人の学生がいました。それぞれの先生はわかりやすい英語で話してくれます。1週間を過ぎた頃には先生の言っていることが最初に比べてわかるようになり、最終的に大体は理解できる程度に耳が慣れていくのを感じました。授業は

Globalisationをテーマに、リスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの能力を伸ばすように進行します。ディスカッションやペアワークなどもあり、積極的に話すことが求められます。うまく発言できなくても汲み取ってくれるので発言がしやすい授業であったと感じます。週末には300字程度のエッセイや、リスニングの課題などがありました。またUrbanisation をテーマに1000 wordsエッセイの提出があり、そのための資料の探し方、引用の仕方なども授業を通して教えてくれます。研修最終週にはエッセイと同様のテーマをもとに8分間のプレゼン発表もありました。

2．課外活動について

このプログラムの醍醐味は「Language Exchange」と、Japanese Societyという団体との交流だと思います。「Language Exchange」とは、ハル大学で日本語を学んでいる学生、もしくは日本に興味がある学生と、互いの言語を教えあったり、日本語の宿題を見たり、一緒に食事をしたりするなどして交流するというものです。お茶大生一人につきパートナーが4～5人つきます。交流の仕方や会う頻度などに決まりはありません。私は5人パートナーがいましたが、1週間に一度会っていたのは一人だけで、あとは連絡が全くつかなかったり、1～2回程度しか会えなかったり、という感じでした。もっと高い頻度で会っている人もいたので、自分から積極的に誘うことが大切です。寮ではお茶大生と日本語で会話しがちなので、こういった英語を話す機会は貴重だと感じました。

Japanese Society とは、日本に興味がある学生や卒業生などが集まったサークルのようなもので、放課後や週末は様々なイベントや日帰り旅行を企画してくれました。寮への入り方、洗濯機の回し方、バスの乗り方など、あらゆることを教えてくれます。今年は Society の代表が日本人の方だったので色々なことを助けていただきました。Society との旅行以外にもお茶大生だけでロンドンに行きました。

3．生活面について

寮の同じフロアはお茶大生だけで、一人一室が与えられました。壁は薄いので話し声などは結構聞こえてきます。シャワー・トイレ・キッチンはフロアで共用、洗濯室は寮全体で共用でした。トイレは4つ、シャワー室はユニットバスを合わせて4つありましたが、そのうち使用できたのは2つのみで、11人でシャワーをまわすのには少し苦労しました。共用スペースの使い方について早い段階で話し合ったのでトラブルは少なかったかと思います。キッチンは綺麗ではないですが設備等は悪くないので自炊もしました。外食へ行くより食費を抑えられます。（外食では日本のように安くて美味しいというのは少ないと思います。大したものでなくても日本円で1000円以上かかったりします。）オーブンは備え付けでしたが、鍋やフライパン、お皿やコップなどの備品はなく、自分たちで購入しました。洗濯室は他の寮生も使うので洗濯ネットは必須です。乾燥機も設置されているので部屋に干したりする必要はありません。忙しかったため洗濯は1週間に一回程度で済ませていました。服が縮むのが怖かったので下着や靴下など最低限のものしか洗いませんでした。

近くに大きいショッピングモールがいくつかあるので日用品の調達には困りません。両替もできます。日本の調味料などは味が違ったりするので、必要な人は持ってくると自炊の時に便利です。大型スーパーのテスコが駅前にあり、ここで大体のものは安く買うことができます。大体の店はカードで支払いができます。寮から大学まで15分ほどバスに乗りますが、片道1.2ポンドの交通費は現金で支払った方が簡単なので、その分の現金は最低限必要かと思います。私はクレジットカードの上限が低かったので、現金を多めに持っていって現金から使いました。外食へ行ったりロンドンでお土産をたくさん買ったりしましたが、使用したのはカード・現金合わせて20万円に届かないくらいでした。ちなみに50ポンド札は大きすぎて使いづらいのでできるだけ小さい額のお札が良いです。

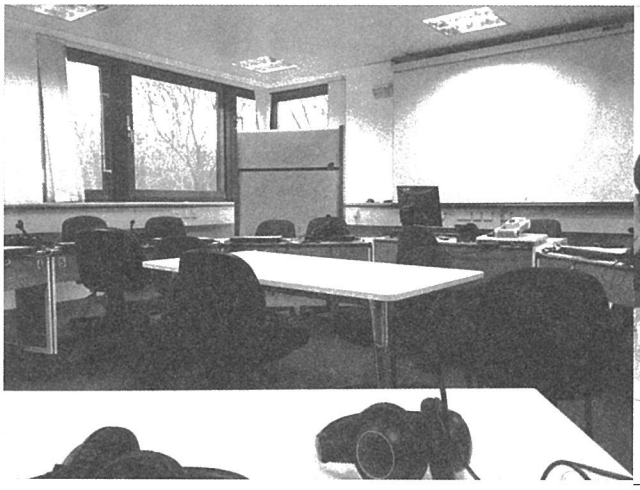
私は海外渡航が初めてで、英語もあまり得意ではありませんでしたが、この研修を通して英語を話すことが楽しいと思うことができました。色々な人との交流は楽しい思い出ばかりで、人間的にも成長できた2ヶ月だと思います。

ハル大学研修を終えて

理学部　物理学科
学籍番号　黒田　仁美

1)授業内容・クラスの雰囲気

クラスには、お茶大生が6人と中国人が4人、カタール人とオマーン人が 1 人ずついました。日本人以外の英語を勉強している人に出会ったのは初めてでした。なので、はじめはみんな同じで、しかもそれぞれに苦手な分野はあることに気づき、励まされました。授業は週に9コマあり、一コマ105分です。先生方がわかりやすく話してくださったので授業についていけないということはありませんでした。また、宿題も多すぎるということはなく、無理なく授業に参加できました。授業では、発言できる機会がたくさんあるのですが、大抵の場合日本にいる時のように黙ってしまって、その機会を無駄にしてしまったことを反省しています。先生も、クラスメイトも間違えても全くきにすることはなかったので、もっと発言すればよかったと思います。



2)生活全般

はじめ寮には本当に何もなく、生活できるのか不安でしたが、基本的には近くのスーパーで必要なものは揃うので問題ありませんでした。また、Japanese society というサークルの方々が、スーツケースを運んでくれたり、バスの乗り方を教えてくれたり、困ったことがあった時に相談に乗ってくれたりと本当によくしてくださったので安心して生活をすることができました。食事も全て自分たちでなんとかします。全て外食だと本当にお金がかかってしまうので、たまに自炊をしていました。お米など日本食の材料を扱っているお店もあるので、日本の料理を作っていました。また、Japanese society のメンバーが私たちの寮にご飯を作りに来てくれることもありました。授業以外の時間は宿題をしたり、language exchange partner と会ってエクスチェンジをしたりしていました。パートナーとは 1 人につき一週間に一回くらいのペースでエクスチェンジをしていました。どの人も親切で英語を話すとてもいい機会になりました。最初の方は、パートナーを誘うことに少し抵抗があったのですが、途中か

ら待っているだけではだめだということに気づき、積極的に誘うようにしました。そのことでたくさんエクスチェンジをすることができて、英語の上達だけでなくとてもいい思い出を作ることもできました。

3)休日の過ごし方

最初の3週の土曜日はsocietyの方々が、Beverly、York、Leedsに連れてってくださいました。日曜日は、寮でゆっくりすることもありましたが基本的にはどこかに出かけていました。特に、3 週目の日曜日にパートナーの彼女のお家に招待してもらって、乗馬をしてお魚を使ったイギリス料理と伝統的なケーキをご馳走になったことがとても楽しかったです。4週目には金曜日の授業後から日曜日にかけてお茶大生7人で2泊3日のロンドン旅行に行きました。そして、5週目の土日でエジンバラ(ハルから電車で4時間程度)というスコットランドの首都にひとり旅をしに行きました。4、5週目の週末はどちらも自分で、電車のチケットやホテルを取ったのでとても勉強になりました。特に、ひとり旅は初めてだったのでドキドキしかありませんでした。帰りに電車が遅れて乗り換えるはずだった電車に乗れないというちょっとしたトラブルもありましたが、society の人やパートナーに相談することでより安全に旅をすることができました。最後に、アムステルダムの乗り換えの時間でちょっとアムステルダム市内に行って観光をしました。

4)最後に

平日も休日も自分次第でいかようにも楽しみ、勉強することができます。しかし、慣れないところで予定を詰めすぎたために疲れが溜まって、体調を崩すこともあったので、時には休むことも大切だと実感しました。

ハル大学研修を終えて

理学部物理学科

学籍番号 1720207 大村 佳穂

授業内容に関して

中国人やイラク人、サウジアラビア人と同じクラスで授業を受けました。彼らは授業中でも、文法や発音が間違っていても、疑問点があればすぐ質問し、発言がとても多いので、日本人は黙り込んでしまうこともありましたが、恐れずその姿勢を見習うべきだなと思いました。授業は(休み時間も含め)一日四時間、金曜日のみ二時間で行われ、プリント形式でした。ファイルとノート（先生の言ったことをメモするノートとエッセイを提出する為の切り取れるノート)を持ってくることをお勧めします。四人の先生が、文法や Academic writing や presentation のやり方等を教えてくれました。Academic writing では、実際に論文などで使えるフォーマルな英語を学べて楽しかったです。日本では習ったことのない、実際にネイティブがフォーマルだと思う文章の作り方を習得しました。ただ文法の授業は正直高校生レベルのを英語で説明されるだけでつまらなかったです。

課題はほぼ毎日出ました。実際に大学で行われていた講義を用いた Listening 、字数制限有り（三百字や千字)のエッセイ 、名詞から形容詞への変形の暗記、英問英答の問題集など様々な形態でした。”締切は明日まで”と言われる課題もたまにあったので、時に大変な日もありましたが、 Exchange partner(詳細は以下で説明)のお陰で、毎回の課題をきっちりこなしていくことができたと思います。

課外活動に関して

最初の三週間、毎週土曜日は、Japanese Society の方達が Beverly と York と Leeds に連れて行ってくれ、一日観光を楽しむことができました。特にミンスターを回った時は歴史等を教えてくれ、英語以外の勉強にもなったと思います。また、日曜日は、同じ寮の(Japanese Society のメンバーの 1 人である)友達が地元の水族館やショッピングモール、外食や寮でのクッキング、その他のアクティビティに誘ってくれ毎週末楽しんでいました。

平日は、私は 9am～1pm まで授業だったので、午後のほとんどは Language Exchange をして過ごしていました。Language Exchange では、お茶大生一人につき四人程ハル大学の日本語を学んでいる学生や Japanese Society のメンバーと、ペアを組んでパートナー(くじで決められ、性別国籍は様々)となり、実際に会って日本語と英語を教えあったり、宿題をお互い見てもらいあったり、カフェやスーパー、パブに行ってお喋りしたりしました。ここでは、日本人一人対外国人一人の状況を作れるので、自分自身の逃げ場がなく研修の中で最も Speaking と Listening の強化練習になった時間でした。また現地に住む彼らのお陰でハルでの生活をより一層楽しめ、まさに一石二鳥でした。皆日本が好きな方達

でとても親切にしてくださったので、最後に日本のお菓子やその他のお土産をあげたら非常に喜んでもらえたので持ってくのをお勧めします。授業と課題、そして Language Exchange で一日が終わり、気づいたら週末になっているそんな楽しい時間でした。また Drop in session という毎週水曜日に授業外で二時間、日本語を選択している生徒に日本語を教えるイベントもありました。来てくれた学生達と仲良くなってご飯を食べに行ったり、SNS でおしゃべりしたりして勉強になったし、楽しかったです。また、たまに Japanese Society が BBQ やパブでの夜ご飯などのイベントを企画してくれることもありました。

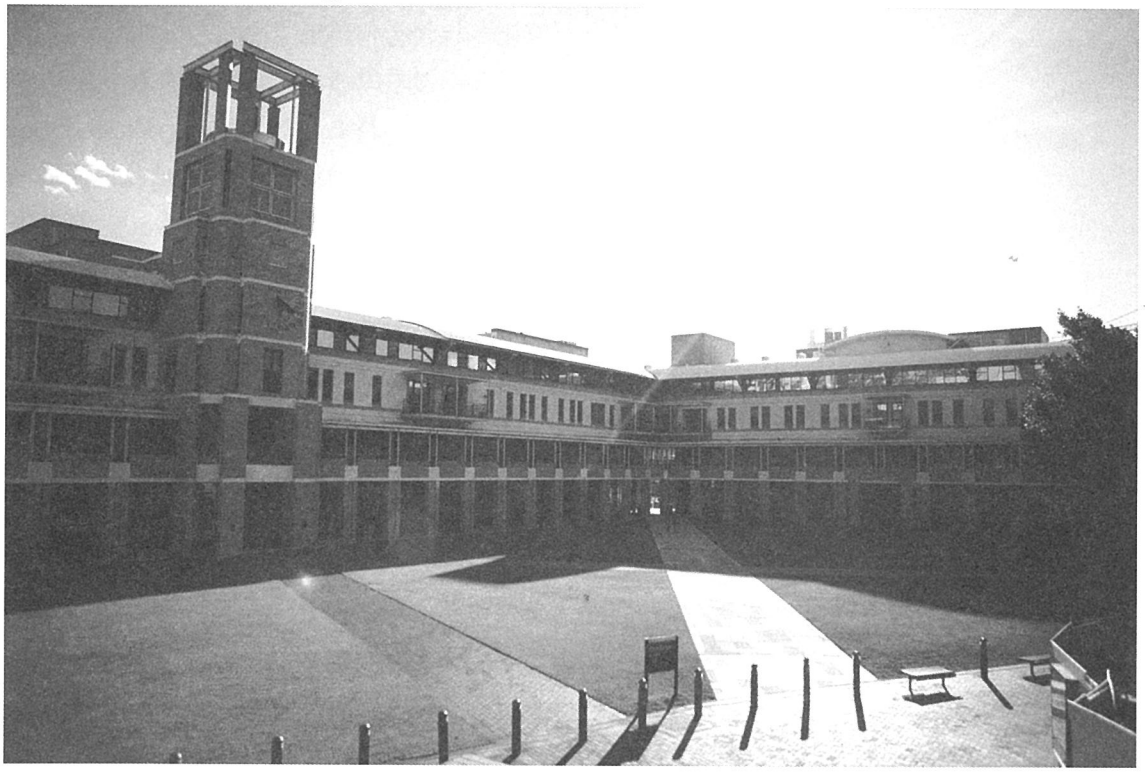
▲大学の近くのカフェのアフタヌーンティーに連れてってもらった様子と通学路の風景

生活全般について

昨年の体験談を読んでいたものの、想像していたよりもハイテクな国に住む私にとってはローテクかつ設備があまり整ってない環境でした。特にヒーターが壊れていたりシャワーやトイレも壊れた時は大変でした。異変を感じたらすぐ寮の管理人に連絡して下さい。

また、殆どの生活用品(硬水に合うシャンプー等やファブリーズ、ハンガーなど)は TESCO で揃うのでそこまで持ってこなくてもいいと思いますが、カイロと除菌シートは持ってくるのをお勧めします。運が良いことに、今年は近年稀に見る暖かい年だったらしいので、持って行ったカイロが結構余りましたが、去年の二、三月の写真を現地の友達に見せてもらったら吹雪だったので、今年の話はあまり当てにせず、カイロはたくさん持ってきていいと思います。また、日本の味(醤油や即席の春雨や味噌汁)は非常に役立ったし、余ったら Exchange partner にあげることもできるので、持参すると良いでしょう。また、研修は他人との共同生活なので、マナーを守り、礼儀をわきまえることが大切かなと思いました。

Japanese Society と特に Exchange partner のお陰で六週間楽しめました。パブでご飯を食べてても、スーパーで一緒に買い物していても、公園等に遊びに行ったりしても全てが英語の勉強へと繋がり、段々相手の話していることを素早く理解できたり、自分でも英語で言いたいことをすぐ言えるようになったりしました。実際に仲良くなった現地の友達が、英語が上手くなったね、もう気を使わなくても喋れると褒めてくれ、自信に繋がったし、生涯英語の勉強を頑張ろうと思えました。自分でも積極的に Exchange や遊びに誘っていたのでほぼ無駄な時間はなかったと思います。私にとって、単なる旅行では得られない体験を沢山させてもらえた春休みでした。



ニューサウスウエールズ大学
（オーストラリア）

研修期間：2019/2/8～2019/3/17
滞在：ホームステイ
研修内容：英語研修

ニューサウスウェルズ大学研修を終えて

生活科学部　心理学科
1830719 長谷川佳穂

1）授業内容

オリエンテーションの日に４技能のテストが実施され、その結果でクラスが振り分けられました。テストといってもそんなに緊張せず、楽しんで受けるくらいの心構えで大丈夫です。スピーキングテストでは将来やりたいことなどを聞かれました。

この研修に参加している人の 80%くらいは日本人でした。しかし、授業中は基本的にペアワークかグループワークで進められ、話し合ったことを全体でシェアすることが多いので異文化交流の機会が沢山あり、文化の違いを学べてとても良い経験ができました。

先生からの問いかけが非常に多いので自ら発言する機会も沢山ありました。積極的にディスカッションに取り組む姿勢が大切だと思います。

文法や単語の確認から、コミュニケーションを通した問題解決の仕方、状況に合わせた Email の書き方まで幅広く学びました。

2）ホームステイ

私のホストファミリーはホストマザーとホストファザーの２人と、犬がいました。私は正直、ホストファミリーとの会話が一番自分の語学力向上に繋がったと思います。毎日、積極的にオーストラリアについて質問して、日本はこうだよ、と紹介できることがとても楽しかったです。折り紙で鶴を折ったらすごく喜んでくれました！

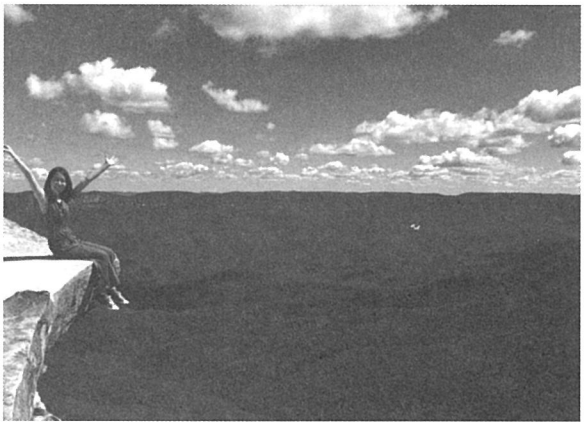
また、せっかくネイティブの人がこんなに近くにいる絶好の機会だと思い、英語についても沢山質問しました。自然な返答の仕方や、微妙なニュアンスの違い、スラングなど、授業では教えてもらえないことも沢山学べた良い機会になりました。

そして、会話の際、質問された時には yes,no の一言で終わらせるのではなく、自分から話を広げるように意識しました。これは、コミュニケーションの良い勉強になりました。自分自身、留学前よりも人と話すことが好きになりましたし明るくなったと感じています。

3）観光

私は今回の留学で語学力向上以外にも、せっかく来たのだから色々なものを見たいという気持ちがありました。授業は1:30に終わるため放課後はたっぷり時間があるということで、毎日どこかに出かけていました。スーパーや小さなマーケットを回るのはその土地の文化の新しい発見にあふれていて感動の連続でした。

また、心理学を学ぶ身としてはマルディグラのパレード（LGBT最大の祭り）を見に行けたのはとても貴重な体験となりました。



観光の際、バス停の場所や電車の乗り換えなど、難しくてわからないことがあったらすぐに周りの人に聞くようにしていました。中学生からお年寄りまで、みんな本当に優しく助けてくれました。観光を通して、現地の人々の温かさに触れられて、オーストラリアの絶景や可愛い動物たちに出会えて、本当に良い思い出が沢山できました。

4）トラブル

楽しいことばかりではなく大変だったこともちろん沢山あります。私はトラブルがかなり色濃い思い出となっています。

具体的には、パスポートを無くし、罰金200ドル取られ、二重請求にあいました。パスポートはスマホのSIMカードをシドニー空港で購入した際に受け取り忘れ、５日後になんとか見つかりましたが、とにかく大変でした。罰金は、通学の際に使うOPALカードの学生用を買ってしまい、短期の留学生には適用されない決まりだったらしく検査官に捕まりました。容赦ない仕打ちにメンタルをやられかけました。二重請求はエアーズロックへ１泊２日の小旅行の際に航空券代が２回引き落とされてしまいました。問い合わせたところ返金されました。ツアーは英語で申し込んだためとても良い勉強になりました。

ホストファミリーは本当に沢山の力になってくれて相談にも丁寧にのってくれました。電話での問い合わせはハードルが高く、自動音声になると撃沈したためUNSWの方に何度も助けていただきました。拙い英語でもハッキリと話し、聞き取れたふりをせずに、相手の言ったことを反復したり自分で言い換えて確認することが大切だと実感しました。

そして、トラブルの最中、様々な場面でオーストラリアの文化、laid-backを身にしみて実感しました。ストレスを溜めて不安に思い過ごすよりも、なるようになると切り替えて過ごすメリットも感じました。強くなったなあと思います。出会えた人や学べた事や成長できた事が本当に沢山あったので決して悪い経験ではありませんでした。

沢山の経験を積めたとても良い留学になりました！

ニューサウスウェルズ大学での研修を終えて

生活科学部　人間生活学科
1830422　駄場 真依子

1.　大学での授業に関して

ニューサウスウェールズ大学では初日にクラス分けテストがあり、その結果からクラスが割り振られ、そのクラスで５週間授業を受けました。授業を通して Listening、Reading、Speaking、Writing の全てに取り組みました。四技能の中でも特に Speaking の練習が多かった印象です。具体的には、授業の中で出てきた意見や問題について同じテーブルに座っているクラスメイトとディスカッションしたり、文法の問題をといた後にわからない問題があれば周りの人に聞いて説明しあったりしました。また、グループプレゼンテーションの課題も出され、同じ班のクラスメイトと二週間ほどかけて準備し最終週に発表をしました。日本人の連絡手段はLINEが一般的ですが、国によって利用するアプリも様々で面白いです。私の班では全員が持っている共通のアプリが Instagram だったので、インスタのグループチャットを利用してプレゼンについて話し合いました。

授業は基本的に月曜から金曜まで授業は 9：00〜13：30 で、途中 11 時ごろに一度だけ 30 分間の休憩時間がありました。途中の休憩時間は、教室を出て建物内にあるカフェや中庭でお昼ご飯やおやつを食べたり、友達と話したりして過ごしました。最初は、違う国の留学生と何を話したら良いのかな？仲良くなれるのかな？と少し不安でしたが、いざ話してみるとみんなそれぞれ違う目標を持って英語を学びにきているし、同い年もいれば子供がいるような人や、自分より年下の 16 歳まで本当に色々な人がいて、それぞれの国の文化や生活の仕方の違いを聞き合ったりするのが面白くて、話が尽きず本当に楽しかったです。

3 週目には遠足がありました。いくつかのクラスでシドニーの中心街まで行き、歴史的な建造物や植物園、オペラハウスなどを周り、他クラスの生徒や先生と交流することができました。この他にも、放課後に他の学生と関わることができるイベントや企画が豊富に用意されていたため、5 週間の研修が退屈に感じることはありませんでした。

私はひどく体調を崩すことなく毎日学校に通いましたが、クラスメイトの中には授業をサボりがちになるような人もいました。自分でお金を払って研修に参加しているからには全て自己責任ですが、最後には四技能と出席点を含む総合的な評価が出されるので、できる限り毎日通い、課題があればしっかり期限までに出すのが良いと思います。（体調不良が理由の欠席や遅刻、バスや電車の遅延による遅刻はかなり配慮されていました）

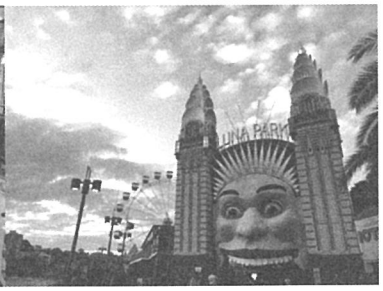
2.　ホームステイや生活面に関して

私がホームステイしたお宅は、すでに娘さんが家を出ており、ホストファザーとホストマ

ザーとホストマザーの弟の三人が住んでいました。とはいっても（ラテン系の家庭では普通だそうですが）、ほぼ毎日誰かしらの家族が家に遊びに来ました。また、3週間に一回くらい親戚一同が家に集まる日があり、家族間の強い絆を感じました。本当に優しい人ばかりで、私のことも家族の一員だからといって話に加えてくれたりと、素敵な時間を過ごすことができました。私の場合は、ホストファザーが大学で買える食べ物はすごく高いからという理由で毎日サンドウィッチとペットボトルの水を持たせてくれましたが、他の友人のほとんどはカフェテリアで何か買ったり、自分で用意して持ってくるというスタイルでした。シドニーは、公共交通機関を沢山利用すると交通費が割引されるなど日本よりもお得に感じる部分もありましたが、基本的に食べ物の値段はかなり高かったため、お菓子などもスーパーで割引の時をねらって買うようにしていました。

3. 全体を通して

他のプログラムと比べて期間が長く旅費も比較的安いということでこのプログラムを選びました。一ヶ月を超える滞在は長く、大変かと最初は思いましたが、いざ過ごしていると1週間たつのが本当にあっという間で気がつくと最終週になってしまい、正直なところ物足りなく感じました。そのくらいシドニーでの生活は楽しかったです。また、日本の大学生が春休み期間中ということもあり、語学学校には日本人がたくさんおり、どうしても授業が終わると日本語を話したくなってしまいますが、英語を学びにきているからにはできる限り英語を使って会話をしたり、他の国からの留学生を交えて会話をすることが大切です。（これが本当に難しかったです！）５週間ただ学校で授業を受けるだけではもったいないので、現地の大学生が主催する交流イベントに参加したり、ホストファミリーと沢山会話をして英語を話す機会を自分で作ったりすると、より充実した短期の海外研修になると思います。毎日が新鮮で、街を歩けば必ず新しい発見や驚きがありましたし、バスで隣の席の人と話したりなど思いもよらぬ出会いも多くあり、最初から最後まで本当に貴重な経験でした。語学力や人間力を高めたら必ずまたシドニーへ行って、ホストファミリーを訪ねたいと思います！！



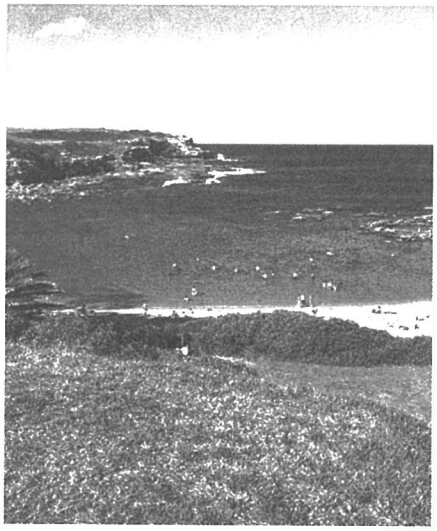
UNSW 研修を終えて

生活科学部　食物栄養学科
1830120　巣山実桜

1）授業内容

UNSW の語学研修コースは細かくレベル分けされていました。私のクラスは全員で 18 人でした。日本の春休みということもあって日本のほかの大学からも短期留学に来ている人が多かったため、18 人中 10 人が日本人でした。しかし、授業中は英語しか話してはいけないということになっていたので、英語の勉強ができなくて困るということはありませんでした。ほかの人たちは中国出身の人が多く、韓国やコロンビアの人もいました。授業はテキストを使って行いました。文法は中学や高校で習ったものが多くて簡単でしたが、スピーキングの活動は他の留学生とたくさん話すことができたので、とてもよかったです。どの先生もスピーキングの時間を多めにとってくれました。また、最後の週にはグループでプレゼンをするという課題が出たので、授業が終わった後にグループで集まってプレゼンを作りました。グループのメンバーはいろんな国籍の人から成るので、英語でコミュニケーションをたくさん取れる良い機会でした。

2）放課後



月曜日から金曜日までは学校に行っていましたが毎日授業は 13 時半に終わりました。なので、平日の放課後や土日はシドニーを観光しました。37 日間もあるのでシドニーの観光名所をほぼすべて回ることができたのではないかなと思います。夏だったので海はとてもきれいで、楽しかったです。また、学校で仲良くなった他の国籍の友達とも遊びに行ったりご飯を食べに行ったりしました。他の留学生と話をするのはとても楽しかったです。土日を使ってエアーズロックへ小旅行にも行きました。

３）ホームステイ

ホストファミリーはとても優しい人たちでした。中国人の留学生も一緒に住んでいました。私のホストファミリーは今までに留学生をたくさん受け入れていて慣れていたので、特に困ったことはありませんでした。学校まではバスで30分位でしたが、通学の交通費だけで週に30ドル以上かかりました。また行く前に聞いていた通り、オーストラリアは水不足が起こりやすいのでお風呂はためずシャワーだけでした。ペットボトルの水も値段が高かったですが、水道水が飲めるので水筒に入れて学校にもっていっていました。食事はホストファミリーが作ってくれていましたが、わたしの家ではアジア系の料理が多かったです。

４）食べ物

オーストラリアは多文化の国なので、とにかく様々な種類の食べ物があります。特に、中国人の人口が多いので、中国料理屋はたくさんありました。日本食料理屋さんは所々にあり、日本食に恋しくなったらいつでも食べに行くことができました。私は海外の味付けが苦手なのですが、オーストラリアにはいろんな人が住んでいてたくさん選択肢があるので、自分の好きなものを選んで食べることができたので良かったです。

ニューサウスウェルズ大学研修を終えて

生活科学部 人間生活学科

1830417 塩崎 彩代

（1） 授業内容

初日にリーディング・ライティング・リスニング・スピーキングのテストを受け、テストの結果でクラスが指定された。テストはそれほど難しくはなく、ライティングのテーマは自由で、スピーキングは自己紹介や大学を選んだ理由を英語で説明するといった内容であった。お茶大生は全員 career learning クラスに割り当てられた。お茶大生の他に、東北大学・一橋大学・名古屋市立大学・関西学院大学の生徒がおり、ほとんどの留学生は日本人だった。授業では、文法・リーティング・リスニング・ライティング・スピーキングを学習した。文法は高校で習った内容と被っていた。ライティングはコンピューター室で授業内に文章を作成し、課題として提出した。フォーマル形式のメール・セミフォーマル形式のメール・友達に送るメールといった、様々なパターンの文章を扱った。スマホのアプリを使って語彙のクイズや、グループで話す活動をした。毎週金曜にテストがあり、一週間の復習をした。課題として、シドニーの観光地を紹介するビデオを作成し、発表した。

（2） 課外活動

授業は 9 時～13 時 30 分までで、放課後は自由に活動できた。大学がシドニーの中心都市からバスで 20 分ほどの距離だったので、放課後にシドニーに観光をしに行くことが多かった。

ハーバーブリッジ・オペラハウスなどの観光名所や、動物園や水族館に行った。週末にはマーケットが開かれるので、各地のマーケットを巡ったり、週末は交通費が安いので、電車やフェリーで遠くまで観光しに行ったりした。 シドニーで年に一度行われるゲイとレズビアンのパレードである、マルディグラパレードを見に行った。日本よりもゲイ、レズビアンに寛容なオーストラリアの一面を体験することができた。

大学が歓迎パーティーを開いてくれたり、バーベキューパーティを開いてくれたりもした（雨で中止になり、大学で昼食を提供してくれた）。毎週木曜日に NSA というサークルの人たちと、日本人留学生の交流会があり、そこでアジア人留学生と仲良くなり、夕食を一緒に食べに行ったり、カラオケに行ったりした。

（3）生活

ホームステイ先は大学からバスで 30 分の郊外であったため、通学にとても便利だった。ホームステイ先から学校までの距離は、人によって当たり外れがあり、徒歩 10 分で通える

人や電車・バス利用で１時間以上かかる人もいた。

私のホームステイ先では、朝食は家にあるシリアルやパンを自分で用意して食べ、昼食は食堂で購入したり、家から自分で作って持って行ったりした。夕食はホストマザーが作ってくれた料理を食べたり、外食したりしていた。

ほとんどのホームステイで、シャワーは一回 10 分以内と決められていた。シャンプーや洗剤はホームステイ先のものを使わせてもらえた。洗濯は一週間に一回洗濯機を使わせてもらった。

気候はほとんどの日は晴れていて、小雨の日が二、三日続く時期もあった。雨の日は少し気温が低く、長袖の服と上着が必要だった。晴れの日は紫外線が強く、サングラスと日焼け止めが必須だった。気温は 21℃～２７℃ぐらいで日本の夏より過ごしやすかった。

ニューサウスウェルズ大学研修を終えて

文教育学部言語文化学科　目黒美帆

授業内容

授業は9:00~13:30で4人の先生から教わりました。4人とも教え方が違ったので戸惑う部分もありましたが、英語の色々な教え方が知れてよかったです。クラスの名前がキャリアイングリッシュだったので授業内容は経済に関わることが多かったです。私は大学で経済を全く勉強していなかったので今まで知らなかった単語を知ったり、考えたことのなかった内容について英語で考えるのはとても新鮮でした。積極的に発言しないとただ人の話を聞くだけになります。ただ、クラスの大半が日本人で構成されていたため休み時間は日本語を話すことも多かったです。このプログラムに限らず短期のものはどこに行っても時期的に日本人が多くなると思うので日本人が全くいない環境で勉強したい人はこうした短期研修は向いていないと思います。

ホームステイ先について

私のホームステイ先は、ペルー出身のマザーとホストシスターが1人という構成でした。一人目のホストシスターは中国人の英語教師の方で中国の英語教育について教えてもらえて大変ためになりました。彼女が帰国した後にベトナムからオーストラリアの高校に通う女子高生が来ました。二人とも私より英語が上手でしたが、私の話にも親切に付き合ってくれてありがたかったです。逆にマザーは忙しい人で家にいてもスマホばかり見ていて話しかけても機嫌が悪かったので私は正直あまり好きではありませんでした。しかし、彼女の作る食事はどれも美味しく、洗濯もしてもらえて部屋も清潔だったので設備に関して全く不満はありませんでした。ご飯の出てくるシェアハウスだと思うことにしてました。どのようなステイ先になるかは運ですが、一番は自分がストレスを溜めず、ある程度諦めをつけることだと思います。じゃないと5週間持たないです。

その他

私がオーストラリアに来て一番印象に残っている出来事はBethanyとの出会いです。彼女とはオーストラリアに来て3日目にどのバスに乗れば良いかわからず途方に暮れていた時にたまたま話しかけた縁で友達になることができました。その後、忙しい中毎週金曜日の授業後に二時間ほどあって会話してくれ、私の最後の週末には一緒に夕飯を食べに行ってくれました。彼女とは同じ年でお互いの国のことについて話すのはとても楽しかったです。彼女と別れるのは本当に悲しかったです。今回の研修では現地の学生と会う機会は限られており、授業後や休日は日本人だけで出かけて日本語しか話していない人も多かったですが、それではもったいないのでクラスの外国人や、私のようにたまたま話しかけた現

地の学生と仲良くなれることもあるので、あんまり日本人同士で固まらずに積極的に外に出ていけると良いのかなと思いました。最後にオーストラリアの治安はとても良いし、人々はみんな優しいです。

一緒にハンバーガーとアイスクリームを食べました！

MONASH College

モナシュ大学（オーストラリア）

研修期間：2019/2/15～2019/3/16

滞在：ホームステイ

研修内容：英語短期研修

モナシュ大学研修を終えて

生活科学部　人間・環境科学科
１７３０２０８　川幡　翠

１．授業内容

授業は、生徒同士のディスカッションをメインに行われました。私はこの短期留学で英語を使ってのディスカッションへの抵抗を減らせたら良いなと思い参加しました。１年の夏に参加したサマープログラムでは、留学生たちの流暢な英語と理路整然とした主張に圧倒され、同じグループのお茶大生に頼ってばかりでした。結局、克服できないままにサマープログラムを終えてしまいました。一方で今回の短期留学の授業では、１対１のディスカッションも多くついつい人に頼ってしまう私にとっては試練でした。しかし、苦手なりになんとか相手に伝わる英語を話そうと努力する機会を得られたという意味でとても良い環境であったと思います。先生の「間違って何が悪い？気にしないで！」というようなポジティブな言葉に勇気付けられながら授業を受けることができました。

また、visitor session という私たち日本から来た留学生が、現地の日本語を学ぶ学生と日本語で話す授業が、私にとってとても印象的でした。日本語を学び始めて間もない学生たちがとても流暢に日本語を話していたり、日本の食べ物やアニメをとても嬉しそうに話してくれたりしました。日本の文化を誇らしく感じ、なにより、日本語のドリルを一生懸命にやっている様子を見て、自分も頑張らなくてはと刺激になりました。

授業内容はホームレス問題・環境問題・多文化主義問題などのオーストラリアの現状を知ることがメインでした。特にホームレス問題では、ホームレスを経験した方から直接にお話が聞けました。とても貴重な経験だったと思います。

課題量としては、予想よりは多かったですが少しずつ進めておけば遊びの支障になりほどではありませんでした。

２．課外活動など

課外活動としては、Field trip や Potluck Dinner がありました。私は Field trip では Mornington Peninsula に行きました。綺麗な海が広がっていて、野生のアシカが水面を跳ねているのも見ることができました。自力で行くのは少し大変な場所だったので、課外活動としていけてよかったです。晴れていましたがとてもとても寒かったので上着は必須です。

Potluck dinner では、各ホストマザー達が手作りの料理を持ってきて振舞ってくれました。オーストラリアには色々な国籍の方々が住んでいることもあり、多様なご飯

を食べることができ楽しかったです。

私は、土曜日に行われる日本語ボランティアには参加しませんでしたが、参加した友達はとても充実していたと言っていました。（毎週土曜日に参加必須なので、行きたいところなどがたくさんある場合はよく考えて申し込んだ方が良いかもしれません）

３．生活全般

ホストマザーにも恵まれ、幸せな留学生活を送れたと思います。行く前は、人の家で１ヶ月も過ごすなんて落ち着かないしストレス溜まりそうだな、などとネガティブなことばかり考えていましたが、想像していたよりもずっと楽しいホームステイとなりました。私は、ホストマザーとの二人暮らしでした。ホストマザーは、留学生を頻繁に受け入れているようで留学生の扱いになれていました。そのため、外出などかなり意見を尊重してくれてとても感謝しています。ごはんも美味しかったです。私は辛いものが得意な方なので特に問題はありませんでしたが、辛いものが苦手な方は初めのうちにはっきりと伝えておくことをお勧めします。辛さがどんどん加速していきます。

（正直に言うと、毎晩３時間半近くのテレビ鑑賞時間の長さにはかなり驚きましたが、今となってはテレビを通して時間を共有できたり会話を増やせたりしたのでよかったなと思っています。）

放課後や休日はとにかく出歩くことを意識していました。３週間目あたりで疲れも出てきて家でゆっくりしたくなりましたが、日本に帰ってからゆっくりすることにしてほとんど毎日出歩きました。外出を通して他大学の人たちとも仲良くなれました。グレートオーシャンロードとフィリップ島のパッケージツアーにも参加しました。可愛い動物たちや素敵なガイドさんにも巡り会えました。

１日の中の寒暖差がとても大きく意外と寒いので、上着は最低２枚くらい持っていくことを切実にオススメします。様々な場面において日本との文化の差を感じることができとても有意義で充実した留学になったと思います。

ロードや野生のペンギンを生で見ることができるフィリップ島に行きました。野生のコアラやペンギンを近くで見たり、海や森、星空などたくさんの雄大な自然に触れたりすることもできて、とても良い経験になりました。また、そのほかにも、Japanese Festival でボランティアをしたり、Potluck Dinner（ホストファミリーと学生が集まる、持ち寄り式のパーティー）で歌のパフォーマンスをしたりしました。

生活全般

私のホストファミリーはホストマザーが一人で、中国からの留学生の女の子も一緒に住んでいました。ホストマザーは私の祖母くらいの世代で、マザーの家族が家にやってくることも何度かありました。マザーの英語はとても速く、聞き取ることが難しかったのですが、私が聞き返しても嫌な顔一つせずに答えてくれたので安心して会話することができました。また、ハウスメイトの女の子は電車の乗り方を教えてくれたり、シティを案内してくれたりと、様々な面でサポートしてくれたのでとても助かりました。同世代ということもあり話しやすく、仲良くなることができて嬉しかったです。食事については、朝はヨーグルトとフルーツ、昼はサンドイッチか前の日の夕食の残り、夜はマザーの手料理を食べることがほとんどでした。マザーの料理はどれも美味しく、少し量が多いこともありましたが、無理して食べなくて大丈夫だと言ってもらえたのできつく感じることはなかったです。夕食ではチキンやラム肉を食べる機会が多かったように思います。私の家では魚料理は一度も出ませんでした。サラダや温野菜が出ることも多く、予想していたよりも健康的な食事でした。ただし、ケーキやクッキーなどのスイーツは日本よりも甘いものが多いです。オーストラリアは水不足の国なので、家によってはシャワーの使用時間を決められている場合もありました。私の場合は、特にそのような決まりはありませんでしたが、なるべく急いでシャワーを浴びるようにしていました。洗濯は基本的に週1回で週末にまとめて洗っていました。

メルボルンでの生活で一番驚いたことは、1日の気候の変化がとても激しいということです。行く前からそのことについては聞いていましたが予想以上でした。特に朝は肌寒いので、少し厚手の上着や長袖の服があると便利だと思います。私は途中でモナシュ大学のパーカーを買って、毎日のように来ていました。少し値段は高かったのですが記念にもなったので良かったです。

終わりに

今回の短期研修は私にとって初めての海外だったので、参加を決めるまでにもとても迷い、行く前は不安と緊張でいっぱいでした。しかし、実際に参加してみて、本当に良かったと思っています。たった 1 ヶ月という短い時間ではありましたが、たくさんの異文化や自然に触れ、たくさんの素敵な人に出会えたことは私にとって一生の宝物です。もし今、短期研修に行くかどうか悩んでいる人がいれば、ぜひ一歩踏み出してみて下さい！

Universidad de Valladolid

バリャドリッド大学（スペイン）

研修期間：2019 3/11～2019 3/23

滞在：ホームステイ

研修内容：スペイン語・スペイン文化短期研修

バリャドリッド大学研修を終えて

理学部　化学科
学籍番号　1820318　山口 亜衣

1. 授業内容

３月１１日から３月２２日の平日は曜日ごとに定められたスケジュールに従って、ヴァリャドリッド大学でスペイン語の授業を受けた。授業にはLengua y Culturaと Actividades Comunicativasの２種類があり、それぞれの授業は約１時間～２時間であった。まずLengua y Culturaでは、スペイン語とスペインの文化を同時に学ぶことができた。スペインの食生活、交通利用、有名な地域などについて教科書の本文を読んだり写真や動画を見たりしながら勉強した。特にレストランでの注文の仕方や鉄道の切符の買い方は、バリャドリッドを観光する際にとても役立った。次にActividades Comunicativasでは、スペイン語の文法を学んだ。主にSER動詞とESTAR動詞の使い分けや人の容姿と性格を形容する形容詞、現在進行形の表現を学習した。主語の人称によって動詞を変形させるのが難しかったが、先生との会話による練習で少しずつなれることができた。どちらの授業の先生も明るく親切で、毎日の授業がとても楽しかった。

↑バリャドリッド大学

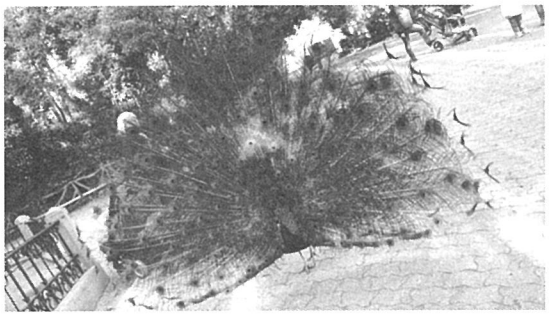
2. 生活全般

スペイン人の生活リズムは日本人のものとは大きく違い、初めは違和感を覚えた。日本では昼食は正午から午後１時の間にとることが多いが、スペインでは午後２時から３時の間に取ることが多かった。その分夕食の時間も遅めで、午後９時から１０時の間に家族と共にたっぷりと食べる習慣があるようであった。スペインには長い期間受け継がれてきた地域特有の料理がたくさんあり、その中でもtortilla de patatasは惜しみなく使われたじゃがいもと優しい卵の味がよくあっていて非常に美味しかった。

また、日本と比べて昼休みを長くとるのが通常であり、だいたいどこのお店も午後２時から午後５時くらいまでは閉まっていた。その間に家族とご飯を食べたり昼寝をしたりしてゆっくりくつろぎ、再び始まる午後の活動に備えるようであった。

3. バリャドリッドの観光施設

バリャドリッドにはたくさんの広場や教会、博物館など訪れるべき場所がたくさんあった。市内の建物はどれも美しくて散歩しているだけで心が浄化されるようであったが、ひときわ大きくて存在感を放つ catedral を間近で見たときはとても感動した。ホストファミリーの家から徒歩で行ける距離には、campo grande という広くて自然が豊かな公園があった。そこにはカモやニワトリ、野生の孔雀などが生息しており何度か羽を広げている瞬間を見ることができた。赤ちゃんからお年寄りまで様々な年齢の人に愛されるその空間でまったり過ごすのはとても幸せであった。



↑campo grande で目撃した孔雀

今回の研修では優しい先生や友達と楽しく勉強して美味しいものをたくさん食べ、綺麗な景色をたくさん見ることができた。しかし全てが順調に進んだとは言い難く、困ったこともあったけれどそれを解決しようと試みることも自分を成長させる材料になったと思う。どの瞬間を切り取っても間違いなく充実していたこの研修に参加することができて本当によかった。バリャドリッドは何度訪れても足りないくらい魅力に溢れていて、素敵な街であった。もっとスペイン語を勉強して身につけ、また行きたいと思う。

バリャドリッド大学研修を終えて

理学部化学科

学籍番号 1820319 山口 愛織

1、授業内容・大学について

今回習ったことで一番印象深い項目は、過去形と現在進行形です。本校の授業では学べませんでしたが、本場のスペインでスペイン語を使い教えてもらうということは、スペイン語の単語力が乏しく難しかったけれどとても楽しかったです。進行形を教えてくださる時、先生が沢山の例を出してくれて、そのことが理解するのを助けてくれました。また、授業形式も７人という少人数形式だからできたのかもしれませんが、クラス全員が授業内で発言できるように工夫されていました。授業では、主にテキストを使っていたのですが、その問題の答えを一人ずつ答えたり一人ずつホワイトボードに書いたりして答え合わせをしました。このシステムのおかげで、もしわからないところがあっても、置いていかれずにその場その場で解決できるのはとても良い仕組みだと思いました。授業の初めには、必ずその日の前の日のことを先生が聞いてくれて答えるということをしていました。これは、なにも書いたりメモしたりなどの準備なしに行う事なので、スペイン語でパッと頭で考え答えるという力を鍛えることに役立ったと思います。授業は２種類あり、先生も２人いたのですがどちらの先生も流暢でないゆっくりとした私のスペイン語に対して焦らせず話を聞いてくれたのでとても話しやすかったです。

また、事務の方々もとても優しかったです。valladolid が小さい町だったのもあり、1人の事務の方とカフェで偶然会いました。その時何度も手を振ってくれました。全員の生徒を覚えてくれているのかな、と思いとても温かな雰囲気の学校だな、と思いました。また、すれ違って hola と校内で挨拶しただけの先生も私たちを覚えてくれていました。ある時、オプションで美術館に行くというツアーがあったのですが、人数制限に達してしまい、参加できないということが起こりました。だから、わたしは友達と計画して自分達で訪れたのですが、そこで偶然大学のツアー団体と出会い、その先生は私たちが生徒だということに気づいて、ツアーに参加させてくれたのです。すれ違いの挨拶だけでも先生たちは、留学に来た生徒たちを覚えようとして、覚えてくれているのだなぁと驚きました。そこで、この大学の温かさを感じることができました。

2、ホームステイ先

ホームステイ先にとても恵まれていたと思います。初日はスペイン語に全然慣れていないことや自分のスペイン語力の無さのせいでホストマザーとコミュニケーションを取るのに大変困難し不安でした。1人の70代くらいの女性の方が私のホストマザーでした。最初のうちは分からない単語のスペルもわからなかったので、ホストマザーに紙辞書を引いてもらい対応しておりました。しかし、毎日一緒に過ごすうちによく使う単語を覚えたりホストマザーが優しいスペイン語を使ってくれたことも大きいと思いますが、何を言っているかがわかるようになり、1週間目の週末にはコミュニケーションが取れるようになっており嬉しかったです。

わたしは 、2回以外3食全てホームステイ先でご飯を頂きました。スペインでの、昼ご飯は2時から3時、夜ご飯は9時から10時ということもあり、学校や遊びに言ってもご飯に間に合う時間帯だったこともあり、ほぼ毎食ご飯の準備を手伝っていました。そのおかげもあってか、食事の時に使う道具や取る、切るという単語や食材の名前をたくさん覚えられた気がします。そして、ホストマザーもとても優しく、別れる時涙したほど寂しかったです。ホストマザーは、いつも今日どこに行ったか、授業はどうだったかなど聞いてくれて、わたしはスラスラ答えることができなくても、笑顔で見守ってわたしの言葉を待っていてくれました。宿題でエッセイが出た時もそのエッセイの確認をしてくれました。また、名前で呼んでくれる時もあるのですが、ほとんどhijaという娘という意味の単語で呼んでくれて、本当の家族のように暖かく接してくれるので、毎日が本当に楽しく快適に暮らせました。

3、Valladolidという町について

Valladolid には、沢山のplaza と呼ばれるところがありました。学校初日にオリエンテーションがあり、Valladolidの観光地について地図を使って教えてくれるというものだったのですが、plazaと教会が主でした。小さな町だったので、１つ１つがそんなに離れておらず、周りやすかったです。plaza は、１つ１つが違く、モニュメントがあるところ、小さなドームがあるところ、青果市場が開かれているところ、古い建物に囲まれたところなど様々でした。そのためplazaがどういうものを指すのか明確にはわからなかったけれど、どこも綺麗で魅力がたっぷりの場所でした。一番のお気に入りは、plaza de España です。 ここには、真ん中に地球儀を支える子供達の像と噴水があります。その両端に青果市場がほぼ毎日夕方３時頃まで開かれていました。地元の人は、mercado de frutas と直訳すると、フルーツ市場という訳ですが、くるみやきゅうり、パプリカも売っていました。ほとんどが量り売りであり、フルーツや野菜は日本のものよりも大きかったです。

また、Campo Grande というところもあり、そこは大きな公園でした。そこには、孔雀や黒い鶏が放し飼いで住んでいました。鳩も日本の公園同様に沢山いたのですが、Campo Grande の入り口付近には鳩小屋と思われる灯台の様な塔が建っていました。美術館や博物館もいくつかあり、周りました。バリャドリッドには、国立彫刻博物館（Museo de San Gregorio）というヨーロッパの中でも重要視されている博物館がありました。この博物館は、主にキリスト教の重要な遺物やキリスト教の物語を表した彫刻や絵の展示でした。この博物館自体も３つのとてもきれいな教会と古い歴史的建物から構成されていました。主にキリスト教に関する展示物だったのですが、１つの建物の中にはギリシャ神話の彫刻が多く集まっていました。キリスト教の教えや細かい神話、キリストの生い立ちのことなどは、あまり知りませんでしたが、彫刻や絵から威厳を感じるものばかりで、全てが息をのむほどの美しさでした。この彫刻博物館が一番印象に残った博物館です。

次に記憶に残った博物館はコロンブス博物館です。なんで、ここにあるのだろうと思い行ってみることに決めました。すると、コロンブスがスペイン時代に訪れたり、バリャドリッドで亡くなったりということが分かり、驚きました。スペイン語で書かれている内容はほとんどわかりませんでしたが、展示物の中にコロンブスが見つけたと思われる石や砂、エリザベス女王宛ての手紙などを見ることができてよい経験でした。

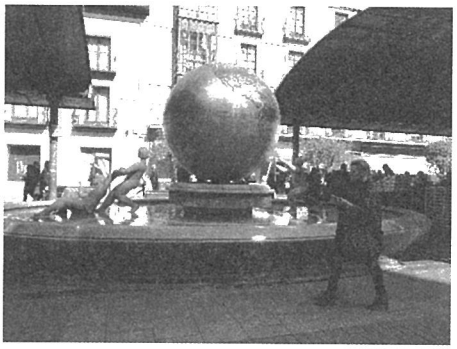
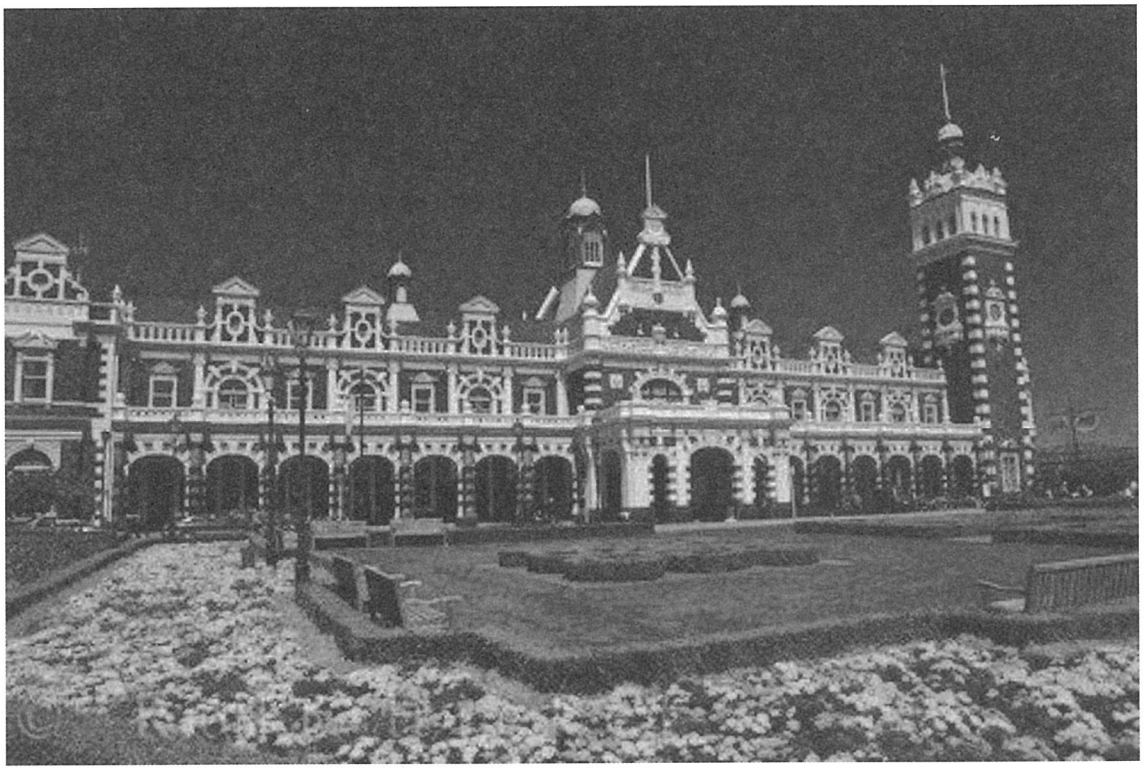


図１：plaza de España

図２：Ingles de San Pablo

UNIVERSITY of OTAGO

TE WHARE WĀNANGA O OTĀGO



オタゴ大学（ニュージーランド）

研修期間：2019/2/18～2019/3/30

滞在：ホームステイ

研修内容：英語・インターンシップ研修

オタゴ大学研修を終えて

文教育学部言語文化学科
1810230 小松 凜香

授業内容

オリエンテーションの日にテストを受け、クラス分けをされます。午前の授業は、そのクラス分けで決まったクラスで General English の授業を受けます。Genaral English の授業では、speed reading や writing などをし、自主学習の時間も 1 日に 1 時間ほど設定されていました。また、週に 1 回、その前の一週間で学習した語彙と文法のテストがありました。午後の授業は、TOEIC か IELTS かを自分で選択して授業を受けます。私は TOEIC を選択しましたが、その中の多くの授業は LIFE という教科書を使ったもので TOEIC の授業というよりは reading、listening、 speaking の三つを学びます。その中でも、ディスカッションが多かったので speaking を主に学びたい人にはオススメの授業だと思います。最初の 3 週間は日本人学生がほとんどだったのですが、4 週間目からはクラスの中でも日本人がとても少なくなり、海外の留学生とも会話をする機会が増えました。日本人学生が 3 週間目と 4 週間目でほとんど帰ったのでそのたびにクラス替えがありました。

課外活動など

オタゴ大学はシティーセンターから近く、ショッピングは大体シティーセンターでできるので便利でした。シティーセンターの近くの駅がとても綺麗で、そこではバグパイプの演奏を聴くこともできました。さらにオタゴ大学からバスで少し行くとボタニックガーデンという大きな植物園があります。そこでは花だけではなく珍しい鳥などもいてとても大きな植物園なのでオススメです。私が行った時期は毎週違ったバンドの人が週末に演奏していたので、それを見ながら友達とピクニックをしました。あまり遠出をしなくても大学の近くにはたくさん観光するところやショッピングモールなどがありました。また、オタゴ大学のランゲージセンターの近くにはジムと体育館があり、事前に予約をして学生証を見せれば誰でも無料で使うことができます。私は、ほとんど毎日授業の空き時間や放課後を利用して友達とバトミントンをしていました。週末にイベントがあるときなどは大学の方からメールで知らせてくれたり、ポスターを貼ってくれたりと、情報は集めやすかったです。

お昼にランゲージセンターの横のカフェをよく利用しました。フランスからきた学生と仲良くなり、休み時間にはフランス語を教えてもらっていました。そして、そこのカフェにたくさんのガードマンを連れたニュージーランドの大臣がきていたことがあり、とても驚きました。

また、大学が主催してくれる一泊二日のツアーがあり、二つの選択肢がありました。私はミルフォードサウンドというところを選び、そこでクルーズをしたり、洞窟の中をボートで

入り、青く光る虫を見に行ったりしました。

生活全般

私がニュージーランドに留学している間にクライストチャーチ襲撃事件という大きな事件が起きました。その時は少し不安だったのですが、翌日に大きなホールに集まり注意事項や安全に関することを聞きました。そのため、安心して留学生活を送ることができました。

生活に関していうと、何かを買うときはクレジットカードが便利だと思います。また、ニュージーランドのほとんどのお店ではプラスチックの袋はなく、そのまま渡されるか紙に包むかだったのでショッピングをする際はバックが必要です。

また、私は毎日徒歩で通学していました。ダニーディンは急な坂がとても多いので歩きやすいスニーカを使っていました。私はニュージーランドの夏から秋にかけていきましたが、とても暑い日もあれば、寒い日もあるし、1日の中でもかなり気温が変化するので、調節のしやすいジャンパーがある方がいいと思います。

また、ご飯に関してはホームステイする家庭によってかなり差があるようでした。私の友達のホストファミリーはインド系でカレーや辛いものが多かったそうですが、私のところは、白ご飯やお肉、麺類などあまり日本の食事と差はありませんでした。大学の近くに日本食のお店もいくつかありました。ホームステイ先を選ぶ時は食事のことなども考えて選ぶといいと思います。

ダニーディンは田舎だと思いますが、とても景色が綺麗で羊や牛などたくさんの動物を見ることができます。ぜひ、オタゴ大学に留学する方はダニーディンの生活を楽しんでください。

同徳女子大学（韓国）

研修期間：2019/2/13～2019/2/28

滞在：寮

研修内容：韓国語、韓国文化研修

韓国・同徳女子大学研修を終えて

ジェンダー社会科学専攻・開発ジェンダー論コース１年
1840417　濵田真里

1，授業内容

韓国での語学研修では、今後の韓国語を勉強するにあたっての土台作りをすることができました。本当にあっという間で、たった２週間でこんなにたくさんのことができるのだなと思いました。私は今回の留学によって韓国語の勉強を初めてちゃんとしたのですが、授業で出てくる新しい文法や単語が多すぎて、まず「このままだと絶対ついていけない！」という危機感を覚えました。でも、それもそのはずで、修了式に韓国語の先生から「あなたたちが２週間でやったテキストは、この大学にくる留学生が３ヶ月かけてやるものです」という言葉があり、驚きました。しかも、ハングルを読むだけでも精一杯なのに授業はほぼ韓国語で進行され、「何を言われているのかわからない……！」という状況に。留学生一人につき一人、韓国人のバディさんがついてくださっていたので、その方に予習復習を手伝ってもらい、授業でやることを事前に理解することでなんとか食いついていきました。

バディさんは日本に留学歴のあるとても優秀な方で、長い時は５時間ぶっ続けで勉強に付き合ってくれたことも。お茶の水女子大学大学院での勉強とは違い、初歩の語学の勉強はとにかく暗記がメインです。なかなか覚えきることができず、授業中に当てられて泣きそうになったことや、わからなさすぎて思考停止したことは数え切れません。とはいえ、自分だけで日本で勉強するのは大変なので、今回一気に文法や単語を進めることができて本当に良かったです。ハングルを絵ではなく文字として見ることができるようになったことが、小さいけれども私にとって大きな進歩だと感じられました。歩いている時にお店の看板やメニューをゆっくりですが読めるようになったり、普段聞いている音楽の歌詞に知っている単語が出てきたりするのがとても嬉しかったです。しかし、まだまだ知らない単語や文法がたくさんあるので、４月以降の大学の授業で韓国語を取りたいと考えています。これからも勉強を続けていきたいです。

２，課外研修

今回の留学を通して、韓国の文化や歴史を体験したり世代を超えた友人ができたりして、旅行ではできないような、留学の良さを改めて実感できました。留学先の同徳女子大学とお茶の水女子大学は、これまで15年間の交流がありましたが、お茶の水女子大学の学生が留学生として来たのは今年が初めてだそうです。最後の修了式で日本語学科長が、「日韓関係は、昔よりずっと悪くなっています。これを打開するには、若い世代の交流が重要です。そのためにも、私たちは日韓フォーラムやイベントに頑張って取り組んでいきますし、来年もこういうプログラムを企画していきます」と仰っていて、とても共感しました。今回私は、

個人同士のつながりをたくさん作ることができました。国の話になると、“韓国が”“日本が”という大きな主語になってしまいがちです。「日本人ってこうだよね」「韓国人って大抵こう」などと一括りにして語ることはわかりやすいし楽かもしれませんが、私は“ジンちゃんが”“キムジナ先生が”といった小さな主語で語れるよう、今回のような出会いと対話を増やしていきたいなと思いました。

３，韓国を代表する古宮である景福宮でのチマチョゴリ体験

韓国語プログラムの他に韓国文化体験という時間があり、韓国を代表する古宮である景福宮に行きました。女性はチマチョゴリ、男性はパジチョゴリを正装として定められているのですが、これらを着て行くと入場料が無料になります。ただ、女性がパジチョゴリ、男性がチマチョゴリを着ていった場合は無料にならないらしく、韓国人の学生たちが説明をしながら「そんなのおかしいよね」と話していました。このルールが定められたときも、韓国内で疑問の声があがったようです。でもこの日、古宮でひとりだけパジチョゴリを着ている女性を見つけました。それがすごく似合っていてかっこよかったので、また着る機会があったら私はパジチョゴリを着てみたいと思いました。写真撮影三昧だったのですが、韓国の女の子たちがとるポーズがどれも可愛くて、特に指で作る小さいハートが私のお気に入りです。写真ポーズのレパートリーが増えました。

同徳女子大学短期研修を終えて

生活科学部　人間生活学科
3年　徳丸朱里

この度、同徳女子大学短期研修に参加させていただき、多くの面で学びを深めることができ、このプログラムを企画してくださった先生方や、滞在中たくさんの時間を私たちのために割いてくださった日本語学科の皆さんに本当に感謝しています。この短期研修を終えての報告として、授業内容、文化体験、生活についての３つに分けて記述したいと思います。

１．授業内容

平日の午前９時から正午まで、韓国語の授業がありました。日常生活で使う会話を中心に学べたため、授業以外の時間に街に出たときに早速実践することができました。また、私はお茶大で韓国語の授業を履修していたため、学習したことを、現地での生活で実際に耳にしたり話したりすることによってより定着させることもできたと思います。

今回の短期研修は２週間という短い期間でしたが、多くの文法や会話表現を学ぶことができました。そして、もっと話したい、もっと単語を知りたいという意欲も湧いてきました。分かりやすいテキストと、先生の的確なご指導にとても感謝しています。また、授業ばかりで毎日詰め詰めのスケジュールということではなく、合間に文化体験の日程が入っていたことや、１日のうち午前中に集中的に授業の時間があったことで、無理なく学習できた点も、時間割を組んでくださった先生方のご配慮のおかげだと思っています。

また、今回は研修に参加した人数が６人と少なかったため、クラス分けなどはなく、授業も先生とコミュニケーションをとりながら、一つ一つ疑問点を確実に解消していきながら学習できました。

２．文化体験

今回のプログラムには、多くの文化体験の時間が含まれており、非常に有意義な時間を過ごすことができました。K-pop ダンスレッスン、韓服体験、カンジャン市場での伝統料理、韓国伝統音楽に触れる体験が用意されていました。どれも初めての体験で、特にダンスレッスンや音楽体験は、普通の韓国旅行ではできないことだと思うので、貴重な経験となりました。

３．生活について

同徳女子大学の敷地内にある、寮に滞在させていただきました。２人部屋で、とても広くて綺麗なお部屋で、真冬で一番寒い時期でしたが各部屋にはオンドル（床暖房）が設置されていたのでとても暖かく、快適に過ごすことができました。お手洗いとシャワールームは各フロアにあり、テレビのある食事スペースもありました。文化体験のスケジュールがある日には、昼食が用意されていましたが、それ以外の日は自分で食事を考える必要がありました。しかし大学周辺はたくさんの美味しいお店があり、コンビニもスーパーもあったので、何も困ることはありませんでした。

４．最後に

今回、初めて海外研修に参加し、２週間生活していけるかという不安や、もちろん言語についての心配もあり、出発するまではとても緊張していました。しかし、同徳女子大学の日本語学科の方が、私たち１人につき１人ついてくださって、心配なことがあれば相談したり、韓国語を教えてもらったり、街に一緒に行ってくださったりと、本当にあたたかく迎えてくださって滞在中楽しむことができました。韓国での生活を経験できただけでなく、こうして韓国の学生さんとも交流を深められ、参加してよかったと心から思います。

同徳女子大学短期研修を終えて

生活科学部　心理学科
学籍番号　1830704　太田佳音

講義内容

朝9時～12時の3時間、大学付属の語学堂にて韓国語の講義を受講した。初回はハングルの読み方、その後はActive Korean という英語と韓国語で書かれた教科書を用いて自己紹介や様々な場面ごとの会話について学んだ。場面の例としては、食堂へ行った時（注文の仕方など）や友人と待ち合わせするとき、身の回りのことについて話す、店で物を買うなどがあった。

授業の進行の仕方は、基本的に韓国語のみで、二人いた先生のうち日本語がわかる方の授業の際は私たちが困っていると日本語での説明もしてくださった。教科書に載っている例文や会話文を主に題材に用い、先生の真似をして音読をしたり、ペアで読んだりと発音の練習にもなった。文法事項などは場面における会話文に出て来たものを取り扱った。

テーマによってはその場面を想定して実際にロールプレイをしたこともあった。例えばお店で物を買う場面ではそれぞれが店役、客役に回り柔軟に会話をする練習をした。

また音読中心の授業の中で最も難しく最も役にたったと感じているのは、書いてある会話文の指定された単語を、別の指定された単語に置き換えて読むというものである。これは単に単語が変わるだけでなく前後の音も変わってくるのでその変換を瞬時にするのが難しかった。宿題もほぼ毎回あり、先生が丸付け、添削を行ってくださった。

課外活動

数回の文化体験があらかじめ準備されてあり、様々な文化に触れることができた。景福宮でチマチョゴリを着たり、本格的なダンススタジオで TWICE の BDZ という曲を踊ったり、伝統音楽のセンターで実際に楽器を弾いたり、市場でローカルな雰囲気を知るなど、本当に多様でどれも面白い体験だった。

またバディの方との個人勉強の時間もあり、私はカフェでの注文の方法や趣味について話す練習をした。

生活全般

二人一組での寮生活だった。とても綺麗な寮でジムなどもあり快適だったがコンロなどは無く、レンジ、ウォーターサーバー、シンクといった最小限のため自炊は難しそうだった。近所のスーパーでカップおかゆやラーメン、パンなどを購入し食べた。また夜は出かけているのでほぼ外食のため食費がかかった。清潔さなどの点で特に困ったことはなかった。

まとめ

非常に充実したと言える 2 週間だった。とても短い期間だったがやはり現地で学ぶという事の大きさを感じた。バディや教授をはじめとする様々な人に暖かく見守られ、助けられ韓国語や文化を学び、様々なことを考える機会となった。また一緒に参加したお茶大生のメンバーも非常にモチベーションが高く、それだけでも参加してよかったと思えるくらい嬉しかった。特に普段お話しする機会のない院生のいろいろな経験をされている方とお話しすることが自分の今後について考える良いきっかけとなった。

それから修了式で代表として挨拶する機会をいただいたことで、それまで人前で話すことが苦手だったが挑戦してみようと思えるようになり、また自分で考えた韓国語の挨拶が通じ先生方にお褒め頂けたことが自信になった。

個人的な活動としては私はお茶大のサマープログラムで知り合った友人たちと連絡を取り、彼女たちの大学やオススメの場所に連れていってもらうなど今回訪れた大学だけに限らない交流を持つことができ非常に嬉しかった。

またプログラム前後に独立記念100周年の日があったこともあり、私は日韓の国交について考えていたが、今回のプログラムを企画してくださった日本語学科の学長の方が修了式の挨拶で日韓関係について言及され、私たちのような若い世代が小さなところから輪をつなげていくことが大切だとより強く感じ、今後韓国語の勉強を続けるとともに自分ができることを考え、少しずつでも良い方向に向かうようにしていきたいと考えた。

同徳女子大学校　韓国語・韓国文化研修に参加して

生活科学部　人間・環境科学科
1730219　　前田　はるひ

はじめに

私がこの研修に参加しようと思ったきっかけは、夏に参加した啓明大学校での研修がとても楽しく、また韓国に行きたいと考えたからです。「数ヶ月前に行ったばかりだしな…」と迷う気持ちもありましたが、せっかく韓国に2週間も行けるチャンスを無視できず、夏の勢いそのままに申し込みました。夏の研修の際は、大邱という地方の都市でしたが、今回はソウルにある大学での研修でした。前回は私にとって初めての海外だったので、右も左もわからない状態で参加し、あっという間に研修を終えてしまいましたが、2回目の今回は、もっと計画を立てて、観光もしっかり楽しみたいと考えて研修に臨みました。

大学の授業について

平日は朝の9時から3時間の授業があり、金曜日と午後は文化体験やソウル観光をしました。クラスには、この研修に参加したお茶大生しかおらず、6人だけで授業を受けました。授業はハングルの読み書きからスタートし、基本的な単語や簡単な文章を学びました。授業で扱った内容は、啓明大で学んだことと似ていましたが、忘れていた単語や自分の発音を見直すことができたので、夏の研修の時よりも韓国語が定着したように感じました。また、授業中は参加者同士や先生と韓国語で短い会話をすることが多々あり、習った韓国語をすぐに使える時間があったのでよかったです。

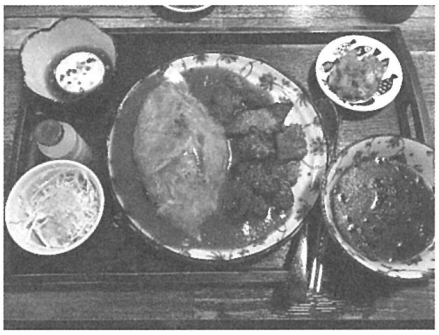
課外活動について

文化授業では、K-POPダンス、韓服、サムルノリを体験しました。K-POPダンスは、ダンススタジオで先生から本格的に教わり、最後はお手本なしで踊りました。上手に踊ることはできませんでしたが、思い切り体を動かすのはとても楽しかったです。韓服体験では、お店にある何着もの韓服の中から自分で一着選び、みんなで写真を撮りながら景福宮を巡りました。韓服は、可愛らしいデザインで、選ぶのを迷ってしまうくらい種類が豊富でした。2月の寒さが厳しい時期だったので、韓服で外を歩くのは凍えましたが、韓国の伝統的な衣装を着て古宮を歩けたことは良い思い出になりました。サムルノリ体験では、“チャング”という太鼓を使って演奏をしました。手の動かし方が複雑で良い音を出すのは難しかったですが、貴重な経験ができてよかったです。

生活面について

大学内にある2人部屋の寮で生活しました。各階にシャワーやトイレがあり、個数も十分にあったので不自由なく使用することができました。また、ウォーターサーバー、テレビ、

電子レンジのあるラウンジや、洗濯機、乾燥機のある洗濯室もありました。部屋の温度調節には、韓国で一般的な暖房として利用されている床暖（オンドル）を使いました。とても快適で暖かかったです。食事は、時々提供していただけることもありましたが、基本的には3食自分で用意する必要がありました。寮にキッチンはなかったので、自炊は全くせず、辛いカップラーメンなどを買ってきて食べていました。また、大学周辺には2週間では行ききれないくらい、おいしいお店がたくさんあり、より取りみどりでとてもよかったです。



一番美味しかった料理
焼肉オムライス　@제나키친

ソウル観光

ソウルは観光地がたくさんあり、毎日出かけても飽きない楽しさがありました。明洞、弘大といった人気の繁華街から、都会の中心地にあるとは思えないくらい荘厳な古宮、街並みを一望できる漢江流域、活気あふれる市場、子供から大人まで楽しめるロッテワールドなど、ソウルの様々な観光地を2週間毎日出かけて満喫しました。

↑昌徳宮

最後に

私がこの研修を通して一番印象に残っていることは、バディさんとの交流です。バディさんは、いつも「どこに行きたいですか」と聞いてくださり、様々な場所に一緒に行ってくださいました。私が困らないように、メニュー表などの翻訳や、店員さんとの間に入っての通訳、観光地での案内など、何から何まで助けていただきました。バディさんに出会えたということだけでも、この研修に参加した意味があったと思えるくらい、本当に素敵な方々でした。また、バディさんとの交流を通して、自分がいかに日本を知らないかということを痛感しました。もし、自分が日本・東京を案内する立場だったら、こんなに素敵な場所に連れて行けるだろうか、ということを考え、日本でもっといろんな場所に足を運び、いいところをたくさん見つけたいと感じました。

韓国への短期研修は2回目でしたが、1回目とは違った新鮮な環境に身を置き、前回以上に得ることが多かったと感じています。一緒に生活した他の参加者の皆さんや、先生、バディさんをはじめとする多くの方々に支えられて、思い出に残る16日間を過ごすことができました。また、この研修は今までの自分を振り返り、今後についてよく考えるきっかけにもなりました。残り半分の大学生活を有意義に過ごすための足がかりとして、この研修での経験を大いに生かしていきたいと思っています。

同徳女子大学研修を終えて

生活科学部　人間・環境科学科
1730206　宇野仁子

授業内容

韓国語の授業と韓国の文化を学ぶ授業がありました。韓国語の授業では、最初はハングルから教えてもらいました。教科書が配られ、1日に1課ずつで9課まで教わりました。進むスピードが速かったのでついていくのに必死でした。ですが、とても優しい先生方だったので、わからないところなどすごく熱心に教えてもらい、わかりやすく教えていただきました。文化を学ぶ授業では、k-popダンスをならったり、チマチョゴリを着て景福宮へ行ったり、伝統音楽の体験をしたり、カンジャンシジャンに行きユッケを食べたりしました。

課外活動

授業がない日は色々な場所へ行きました。明洞や弘大、新村、ロッテワールド、高速バスターミナル、チムジルバンなどへ行きました。

明洞や弘大などの日本人の多い観光地では、日本語が話せる人がとても多かったので、何も困ることはありませんでした。

弘大と新村では、行きたかったカフェに行けてとても嬉しかったです。

ロッテワールドでは、アトラクションの注意説明が韓国語だけだったので、分からずに少しドキドキしました。

チムジルバンは、とても居心地が良かったため、滞在中に二回も行ってしまいました。

ロッテワールド

地下鉄が東京と同じような地下鉄だったので、とても分かりやすかったです。移動しやすく行きたいところにどこへでも行けました。

生活全般

大学の敷地内にある寮に滞在しました。二人部屋ですが、とても広く過ごしやすかったです。寮にはキッチンがないので主に外食でした。よくバディさんが色々なお店に連れて行ってくださいました。学校近くにお店がたくさんあり、コンビニやスーパーもありまし

た。なので朝ごはんや昼ごはんなどは買ってきたものをよく食べていました。

韓国はとても食べ物が美味しくて感動しました。スーパーで買えるものでは、韓国のりのふりかけのようなものがとても美味しかったです。

また、ソウルは日本より寒く、雪が降る日もあったため、防寒具をたくさん持って行きました。

チキンとビール

終わりに

２週間、とても充実した日々を過ごすことができました。全く韓国語がわからない状態から、少しは分かるように変わりました。何よりも、韓国で生活をすることで、今までの韓国のイメージが変わり、とても身近に感じるようになりました。周りの方がすごく優しく親切で、韓国の色々なことを教えてもらいました。韓国にますます興味が湧いたのと同時に、日本について自分で説明できるくらいに知らないといけないなと思いました。今回、研修に参加することができてとても良かったです。これからの生活に生かしていきたいなと思います。

同徳女子大学研修を終えて

生活科学部　人間・環境科学科
学籍番号 1830222　山﨑果歩

韓国の同徳女子大学で 2019 年 2 月 14 日～2 月 28 日の2週間、研修に参加した報告をここに記す。短い時間であったが、とても濃い経験ができた。本当にありがとうございました。

授業内容

私は今回の韓国留学で初めて韓国語を学んだ。出国までに2回ほど、お茶の水女子大学で韓国人の先生が教えてくれる事前研修があったものの、ハングルを全く読めない状態で、この研修に参加した。

今回の研修では、お茶の水女子大学以外で韓国へ他国から来た学生はおらず、韓国の授業ではお茶の水女子大学の学生6人に対して、1人の韓国人の先生であった。そのため、先生との距離がとても近く、質問があったら授業中でも「わからない！」と思ったその場で解決することが可能であり、先生には日本語を交えながら常に丁寧に教えていただけた。授業の進め方は、『Active Korean 1』という教材を使用し、「買い物」、「食事の時レストランにて」、「時間」などの 1 日の授業に対して一つのテーマに区切りながら学習した。授業の学習時間は、午前の9時から12時までの3時間であり、座学の韓国語の授業は 8 回あり、後の授業は韓国の文化研修を行なった。

自分の韓国語の上達に関しては、授業がテーマごとであったため、学んだ韓国語が日常生活の中でどのタイミングで使用されるのか理解できた。研修中に授業で学んだことを、実際に現地の方達が日常会話で使っているのを聞き取れた時は驚きとともにとても嬉しかった。韓国語が全く読めない、記号にしか見えない、話せない状態から、ハングルを発音できる、授業で学んだことであれば日常生活でなんとか応対ができる程度にまで上達したのである。単語や文法事項など、まだまだ韓国語の習得にはほど遠い状態ではあるものの、この研修によって「韓国語」という言語を学ぶ第一歩を躊躇することなく踏み出すことができた。

課外活動

平日の授業を終えた後の午後や休日は自由時間が多く、韓国のソウルで課外活動をしていた。同徳女子大学の日本語学科の学生が、お茶の水女子大学の学生一人一人にバディとして助けてくれ、一緒になって韓国で買い物やご飯など観光を楽しんだ。バディさんはとても日本語が堪能で、韓国語が全く理解できない私を助けてくれたり、チムジルパンや韓国の地元の人が知っているお店に連れて行ってくれたり、この研修が何も困ることなく充実したものになったのは、バディさん達の力がかなり大きかった。本当にありがとうございました。

また、2018年の夏にお茶大で行われたサマープログラムで仲良くなった韓国人の友達と、今度はソウルで再び会うことができたことも課外活動で印象に残っている。異国の友達であっても一度

出会って終わりではなく、繋がり続けられて、また時間を共にすごせられることがこんなにも楽しいことだとは知らなかった。サマープログラムで出会った他の友人にも再び連絡を繋ぎ、いつかまた直接会いたいと思った。

生活全般

私は今回の韓国研修が初めての海外であったため不安はたくさんあったが、何も困ったことがなく、異国の地、異国の文化を存分に楽しむことができた。それも今回の研修のために動いてくださった方々のおかげであることを実感しながら、今度は自分が恩返しできるように今後も学んでいきたい。

特に、バディさんに対して見習わなければいけないなと思った点は、自国の韓国の文化を日本語という外国語で詳しく紹介してくれた所だ。私は、現地点では日本語ですら日本の文化や遺産について詳しく話せる知識を持っていない。ましてや、外国語でその外国語を母語とする人に伝えることができるわけもない。そんな甘んじていた自分を恥じ、バディさんが行ってくれたように今度は私が異国の人に日本のことをもっと伝えられるように勉強したいと思うきっかけになった。

編集後記

本報告書は、2018年度春季短期研修に参加した学生39名が、それぞれ学んだことや経験したことを振り返り、また同じくこれから短期研修に参加する学生へのメッセージとして執筆し、それらを取りまとめた報告書です。

学生の皆さんの報告を通じて、決して観光では見ることのできない光景、交わることのできない人々との出会い、そして何にもかえがたい経験があったことがわかり、留学することの意義を如実に伝えてくれています。また、単にその国の言語や文化を学ぶことに留まらず、想定外の出来事に対処する力や、見知らぬ環境で生活していく力、他者とかかわり共生する力などが留学を通して育まれ、自己成長につながっていったことが、読み取れたかと思います。

かつてないほどにグローバル化が進む現代社会では、インターネットやSNSを通じた「世界」や「他者」が身近にあります。そのような中で、留学に行くことにどれほどの価値があるのか、疑問に思うこともあるかもしれません。

その疑問の応えは、学生たちが記した言葉一つひとつから導きだすことができるのではないかと思います。多くの学生が「留学をしてよかった」と報告書を結びました。もちろんその「よかった」という振り返りには、語学力が伸びたこと、生活力があがったこと、多様な文化に触れたことなど、様々な経験が含意されているでしょう。一方で、共通して述べられていたのは、現地での「出会い」の尊さと「感謝」でした。留学したからこそ出会えた人々がいて、そうした人々に支えられ、助けられたことへの感謝。この短期研修の間に培われた「かかわり」が帰国後も続いていき、またそのことが学生の皆さんの新たな学習の動機として記されていたことに、何にもかえがたい留学の意義が感じられました。

本報告書が、以上のような研修参加者の振り返りの機会としての役割を果たすとともに、留学を検討している未来の研修参加者の皆さんの背中を押す一助となることを願っております。

国際教育センター　アソシエイトフェロー
鈴木芽以

2018年度春季　海外短期研修報告書

発行日　2019年9月
発 行　お茶の水女子大学　国際教育センター
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
TEL: 03-5978-5913

研修・編集担当　国際教育センター
アソシエイトフェロー　鈴木芽以

go abroad!